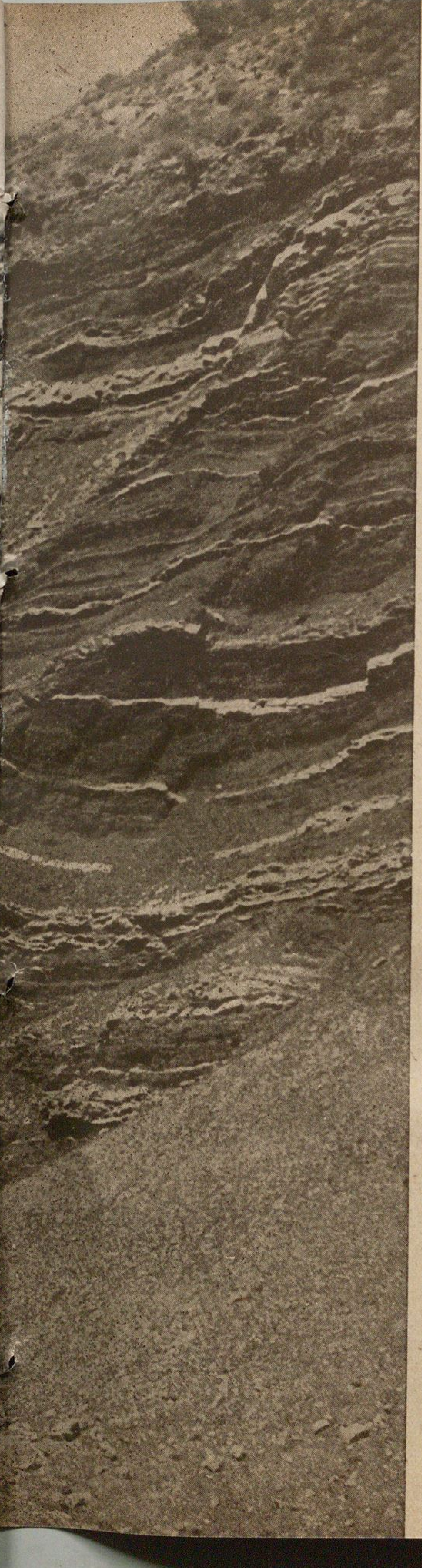
北支

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十八年四月十五日印刷納本
昭和十八年五月一日發行（毎月一回一日發行）　第四十八號



石炭

石炭の消費量は一國の文化の程度を示す目盛のやうなものである。特に戰時下にあつては生産力の源泉である石炭の消費は莫大な數量に達する。

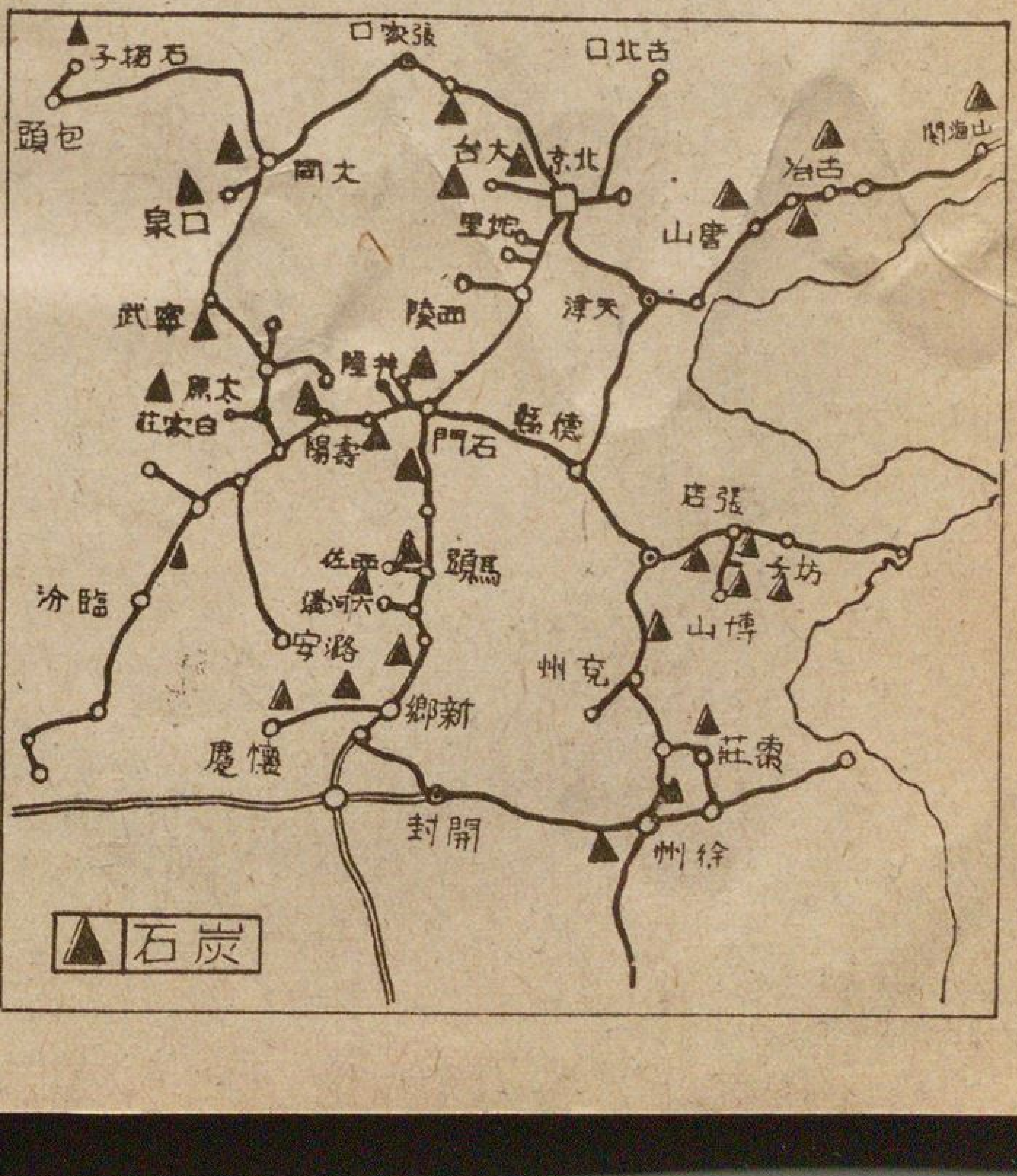
世界主要國の一人一年當り石炭の消費量は大體次の如くであつた。

日本　〇・六噸
獨逸　二・七噸
米國　四・三噸
英國　三・九噸

日本が大東亞の盟主となつて世界新秩序をうち立てるためには少くとも米英並の石炭消費國にならねばならない。鐵鋼一噸を生産するには約三噸の石炭を要するが、我が東亞共榮圏が今後絶對必要とする鐵鋼を千五百萬噸とすれば、それに對して石炭四千萬噸以上を要する、この外に一般工業の一大發展が豫想されるので三億噸位の石炭が消費されることになる。之を一億の人に割り當てると、一人一年三噸となるから、略〻米・英に伍することができるのである。

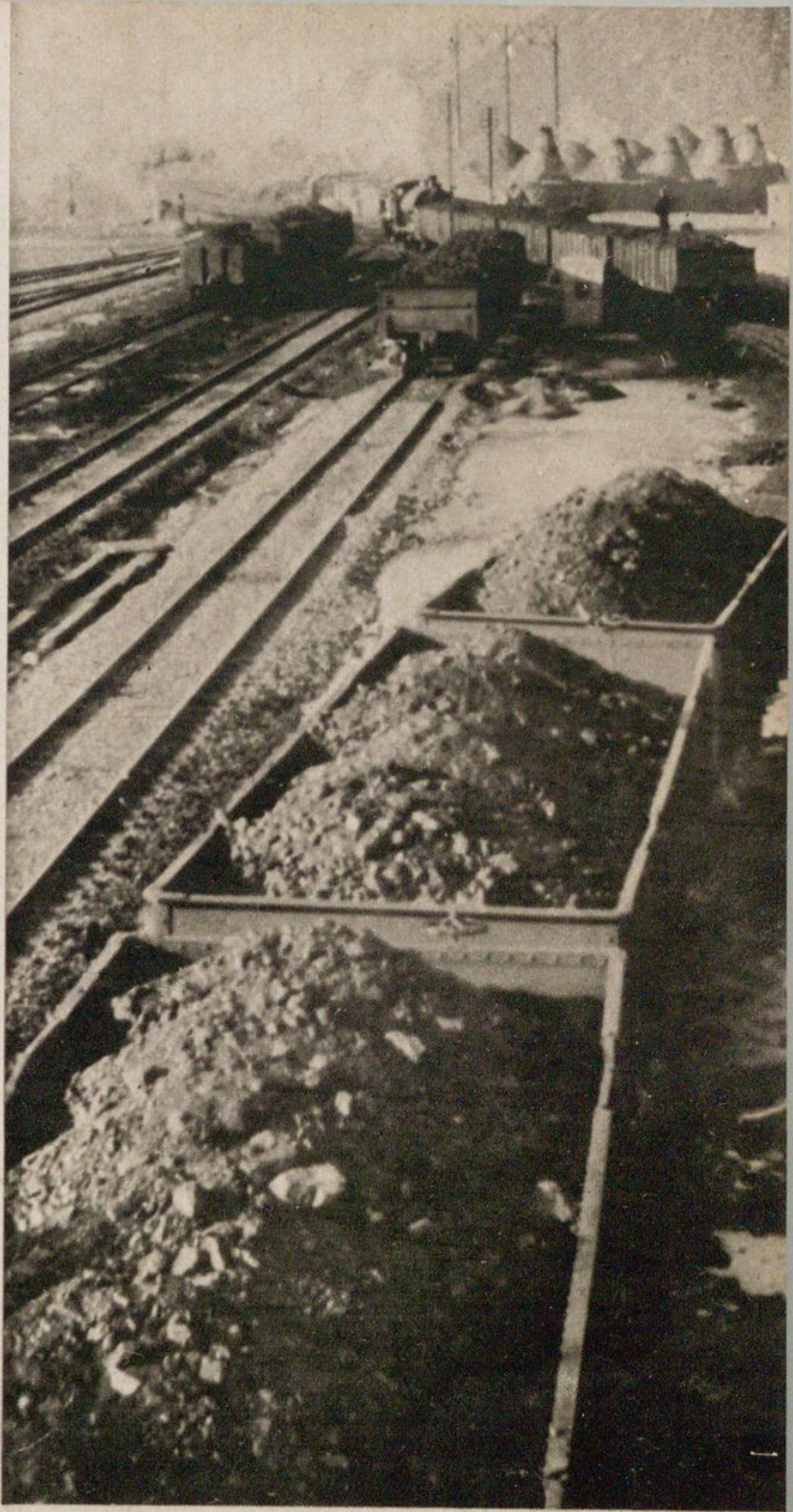
しかして、大東亞共榮圏内の石炭資源は、北支をはじめ、南支、佛印、など極めて豐富であり、特に北支の石炭は量（二千億噸）質（高度瀝青炭）共に世界に冠たるものである。

北支に於ける鐵の分布略圖



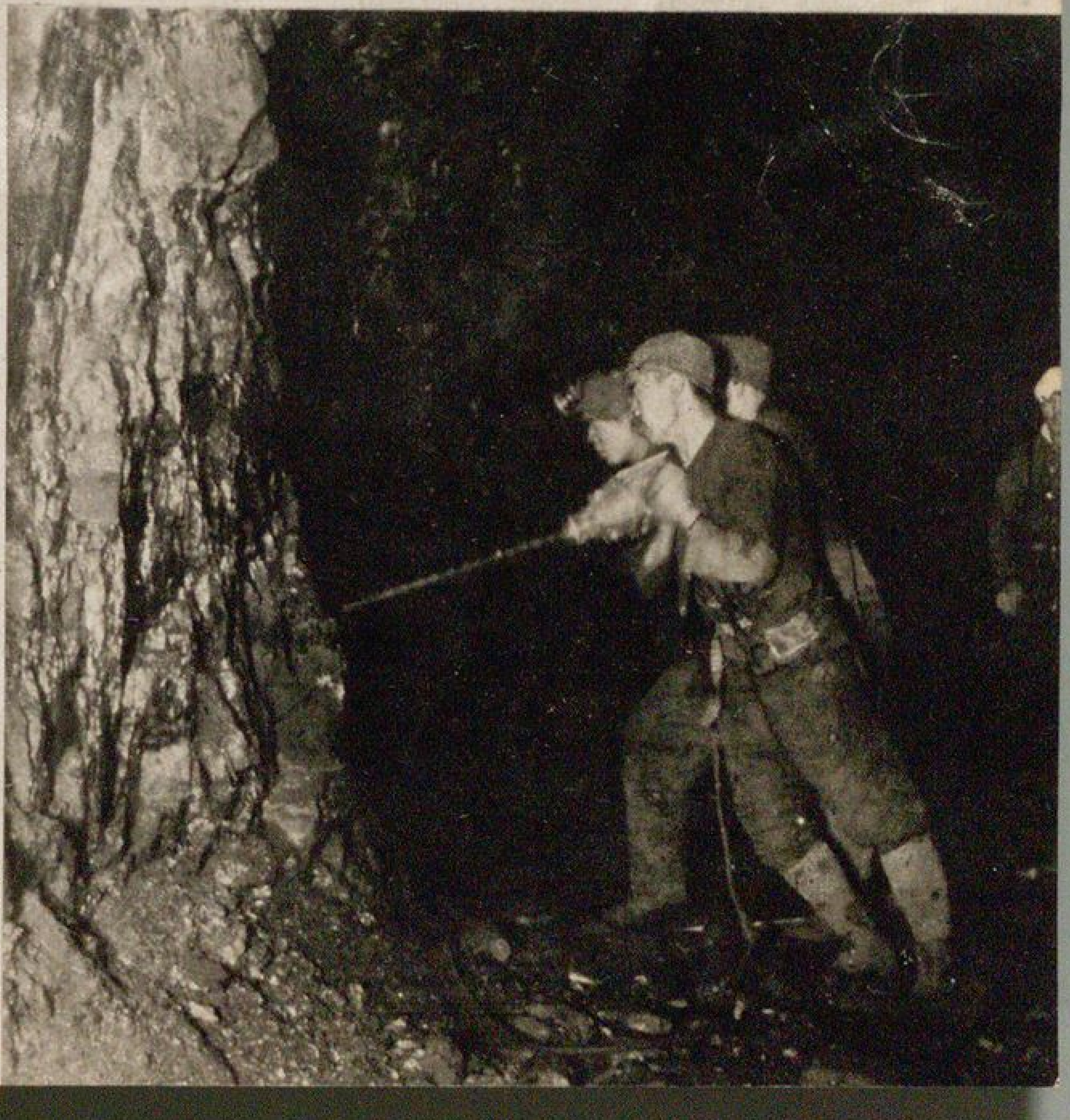
北支の炭層平均5米、1米以下のものなどは他に餘程の好條件が備はつてゐない限り放置されてゐる現狀である

石炭 二



北支の採炭技術は極めて幼稚、原始的な方法がその大部分を占めてゐる。これは炭層が地表に近く、且つ厚く、(五米程度が大部分である)その上面積廣大にして地質が單純であり、內地にみられるやうなチリメン層の如き複雜なものがないから、高度の技術の必要がなかつたことに起因するのである。

嘗ては北支の主要炭礦も他の重要產業と同樣に英國等の帝國主義的專橫下に占められてゐたのであるが、之等の炭礦は流石にかなり秀れた技術を使用してゐた。然しそれも我が採炭技術に比較すれば、三四十年も舊式なものなのであつた。從つて其の他の一般炭礦



の如きは如何に原始的な採炭狀況を示してゐたかが知られる。

今日我が國は決戰の陣に備へ乍ら、雄大な大東亞の國土計畫を進めつゝあるのである。北支の良質の石炭は現在の日本に絶對に必要である。在北支關係各機關が、日夜擧げて石炭の日本向け增送に努力してゐるのも、このためである。

寫眞說明

一、華北交通では旅客列車を極度に抑制して內地向け石炭の增送をはかつてゐる

二、北支大部分の炭礦の特長は、天盤堅固な上に、湧水量が少いため、坑木が不要なこと、坑內ガスが無いから爆發の危險も殆んど無いなどあらゆる好條件に惠まれてゐる

三、炭層は二、三十米のやはらかい黃土層を被るのみであるから、寫眞にみる如く井戶掘りぐらゐの勞作で易々と採炭ができるのである

四、北支炭礦の電力使用量は出炭一噸當り平均一四・五KWHで、日本の三五KWHに比するとその半數にも及ばない。これを日本の使用量にまで引き上げなければならない。寫眞は北支の或る炭礦の運炭ケーブル

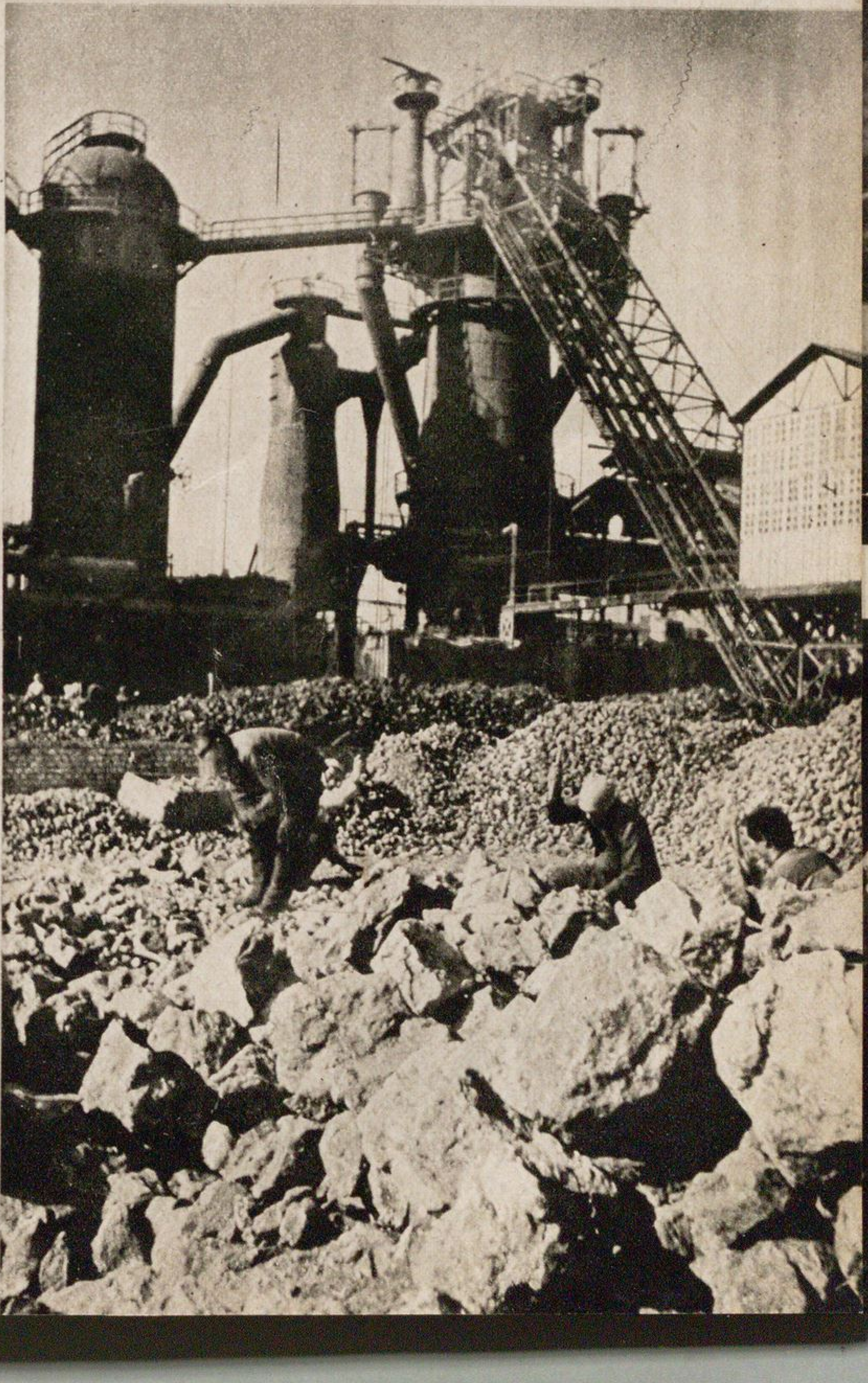
龍煙鐵鑛

鐵

決戰下、日本の製鐵用原鑛は、その大部分を北支の龍煙、中支の大冶、海南島から仰いでゐる。北支の鐵鑛石は中支、南支、あるひは南方圏にくらべ輸送効率の點からみて、數倍有利であることが再認識され、一層重要性を加へてきた。

龍煙鐵鑛は北支の代表的鐵山で、一億二千萬トンといふ豐富な埋藏量と、品位六十五パーセントの磁鐵鑛および四十乃至六十五パーセントの赤鐵鑛を産出する質の優秀な點で名高い。熔解しやすく、コークスの使用が少量ですみ製錬した鐵は最上の鑄鐵に適するといはれる。採掘原鑛の大部分が對日輸送に充てられ、戰時日本に多大の貢獻をなしつゝある。

北支には龍煙のほか、山東省の金嶺鎭、江蘇省の利國の二鐵鑛があり、また山西省には全省にわたつて石炭層間に富鑛が賦存してゐる。



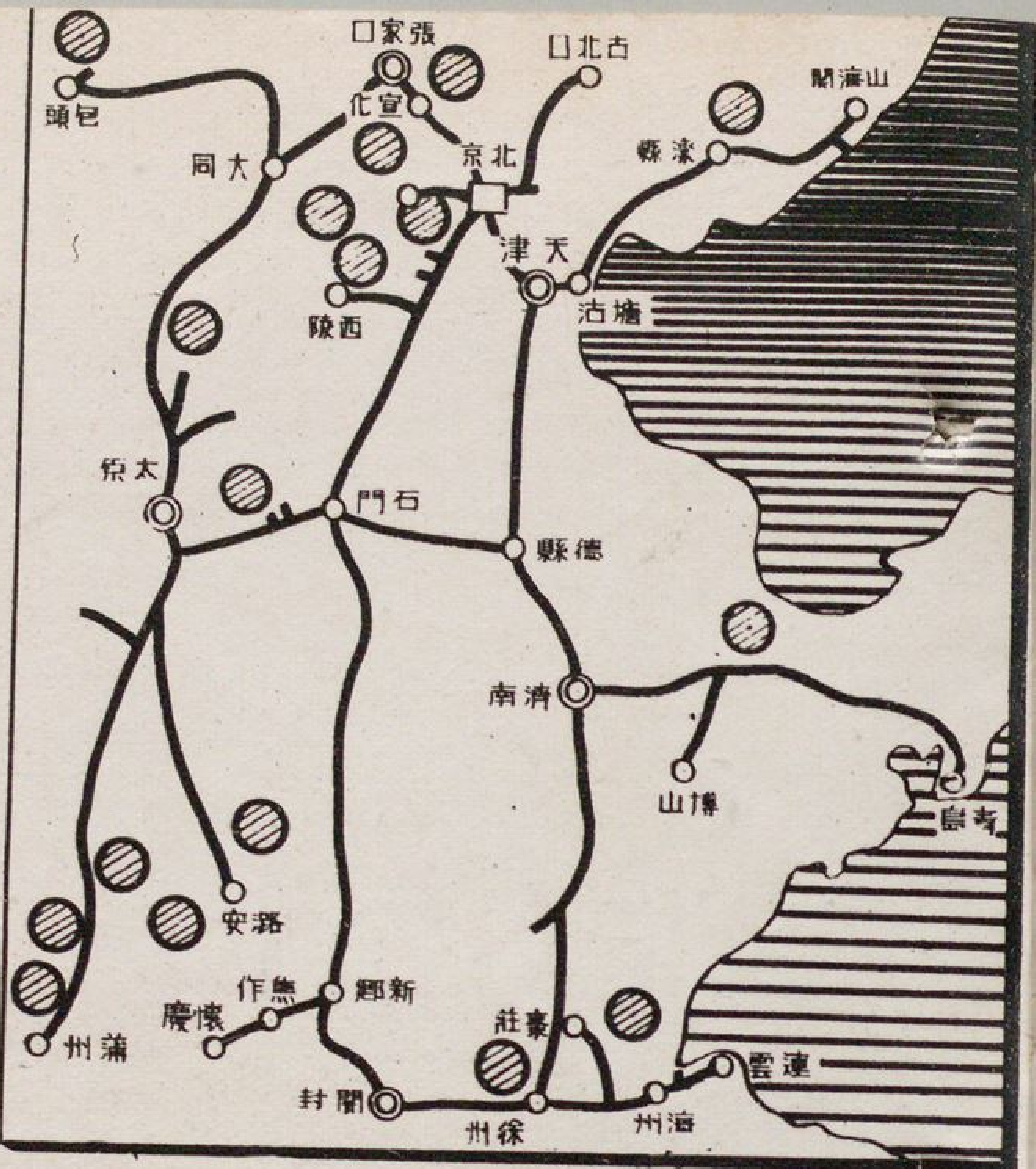
原鑛

貨車積込

鐵

二

製鐵所



北支に於ける鐵の分布略圖

金嶺鎭も鑛質はよく（磁鐵鑛、赤鐵鑛、品位平均五十八パーセント）、青島港を控へて、今後の發展が期待されてゐる。

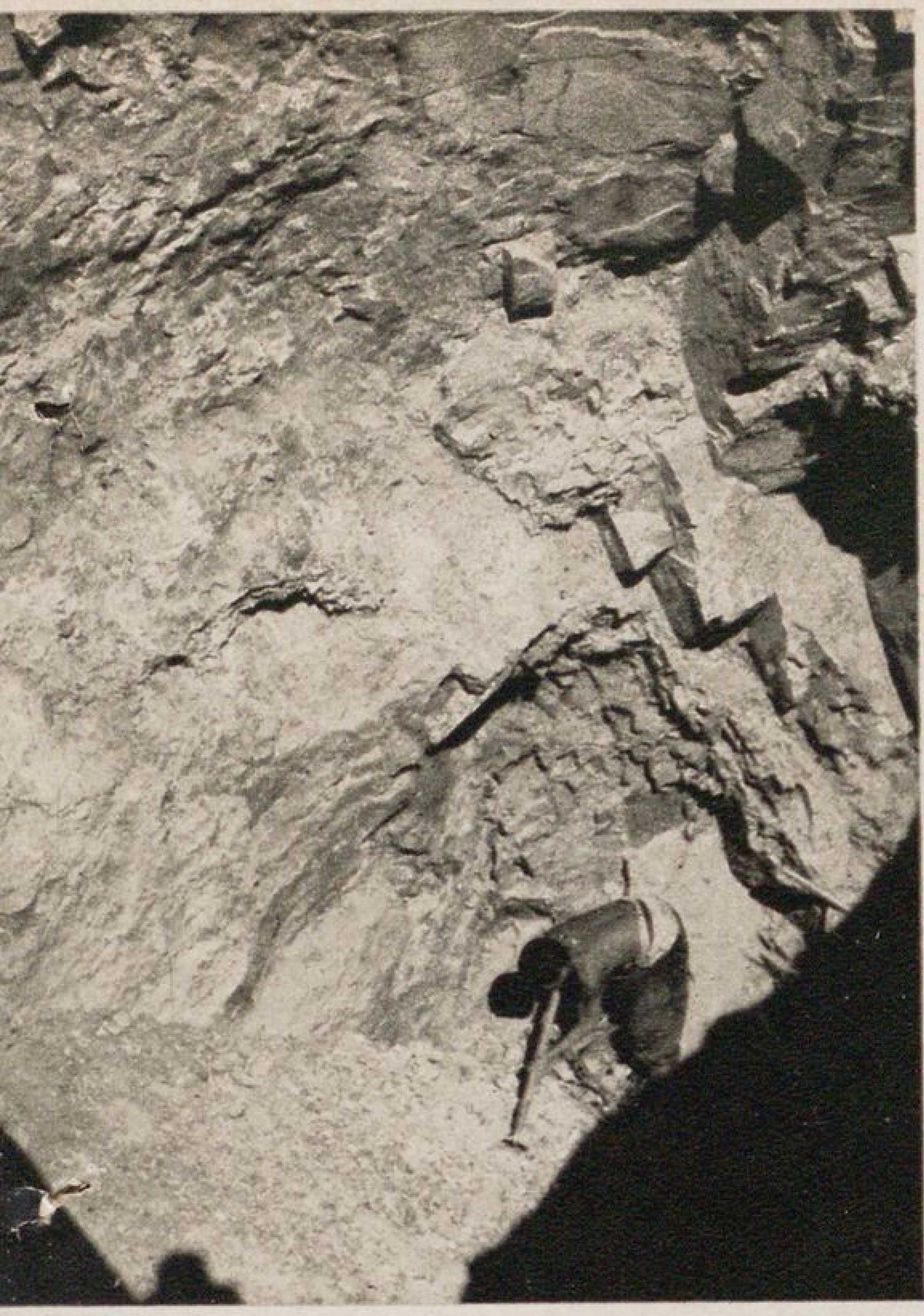
第一次歐洲大戰後、日本の手によつて採掘され、八幡に鑛石が送られてゐた歷史を有してゐる。

山西の諸鐵山は地場製鐵用に供されてゐる。

現地製鐵業の發達はまだ不充分であるが、豐富な有煙性粘結炭とこれら富鑛を用ひる大規模な製鐵が緒につきつゝある。

鎔鑛爐

礬土

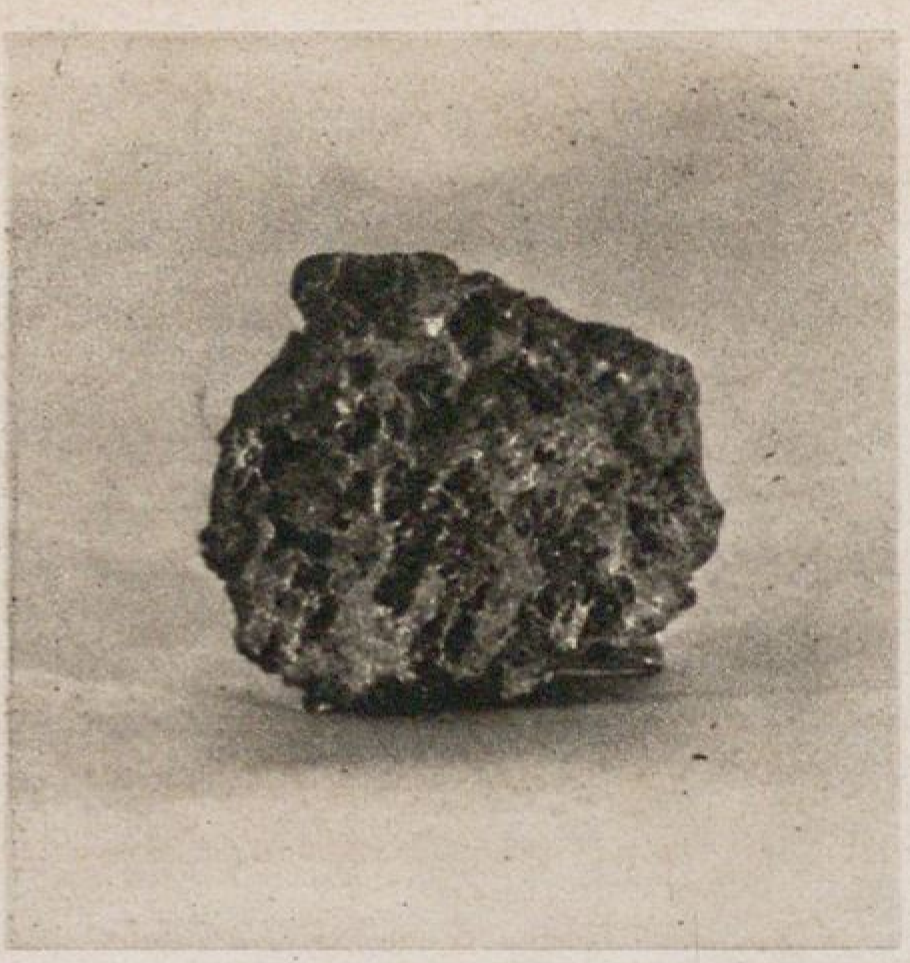


礬土の山を掘る（京山線灤縣）

戰時下アルミニウムの需要は益〻増大するばかりである。アルミナ原鑛たる礬土頁岩は北支には無盡藏である。冀東の開灤炭田地區の埋藏量は四億瓲更に山東省の淄川、博山、章邱の各炭田地區は十四億瓲である。元來我が國のアルミニウム工業はその原料の殆んど全部を海峽植民地、南洋群島、遠くはギリシヤから輸入されるボーキサイトに仰いでゐたのであるが、大東亞戰爭開戰前、米英の對日包圍陣結成の結果、輸入が困難となつたので、礬土頁岩からアルミナ抽出に成功した。卽ち滿鐵法、鈴木法は何れもそれである。

礬土とは石炭層の上下層に在つて、地質學上、古代生石炭紀二疊紀に屬する水成鑛物であつて、常に同紀に屬する石炭と併存する。

鑛石の輸送



ＩＳＡと稱する最も純度高き鑛石

冀東鑛工所のシヤモツトキルン

鹽

鹽は日常生活から切り離すことの出來ない貴重な物資であるが、今日では化學工業の基礎的原料として、一層の重要性を加へて來た。

工業鹽の主要用途はその成分たるナトリウムと鹽素とを利用する工業の原料としてであつて特に人絹、人織、洋紙等の製造に必要な苛性曹達、硝子工業其他幾多の工業用原料として缺くべからざる曹達灰、毒ガスの原料や醫藥品、工業藥品たる無機性鹽素化合物の原料たる鹽素とは、その最も基礎的なものである。戰時には直に化學兵器製

蒙古シリンゴル盟ダブスノールの鹽池、周圍20キロ、一面純白の鹽である。なほこの外、山西の運城其他多數の鹽池がある

造に轉換できる工業が多いのである。

したがつてこの資源を豐富に確保することはわれわれの日常生活を維持するだけでなく、一國產業の興廢、一國國防力の盛衰に影響するところ極めて大きく、世界列强がこの資源の確保に腐心してゐるのも斯の如く重要な資源だからである。

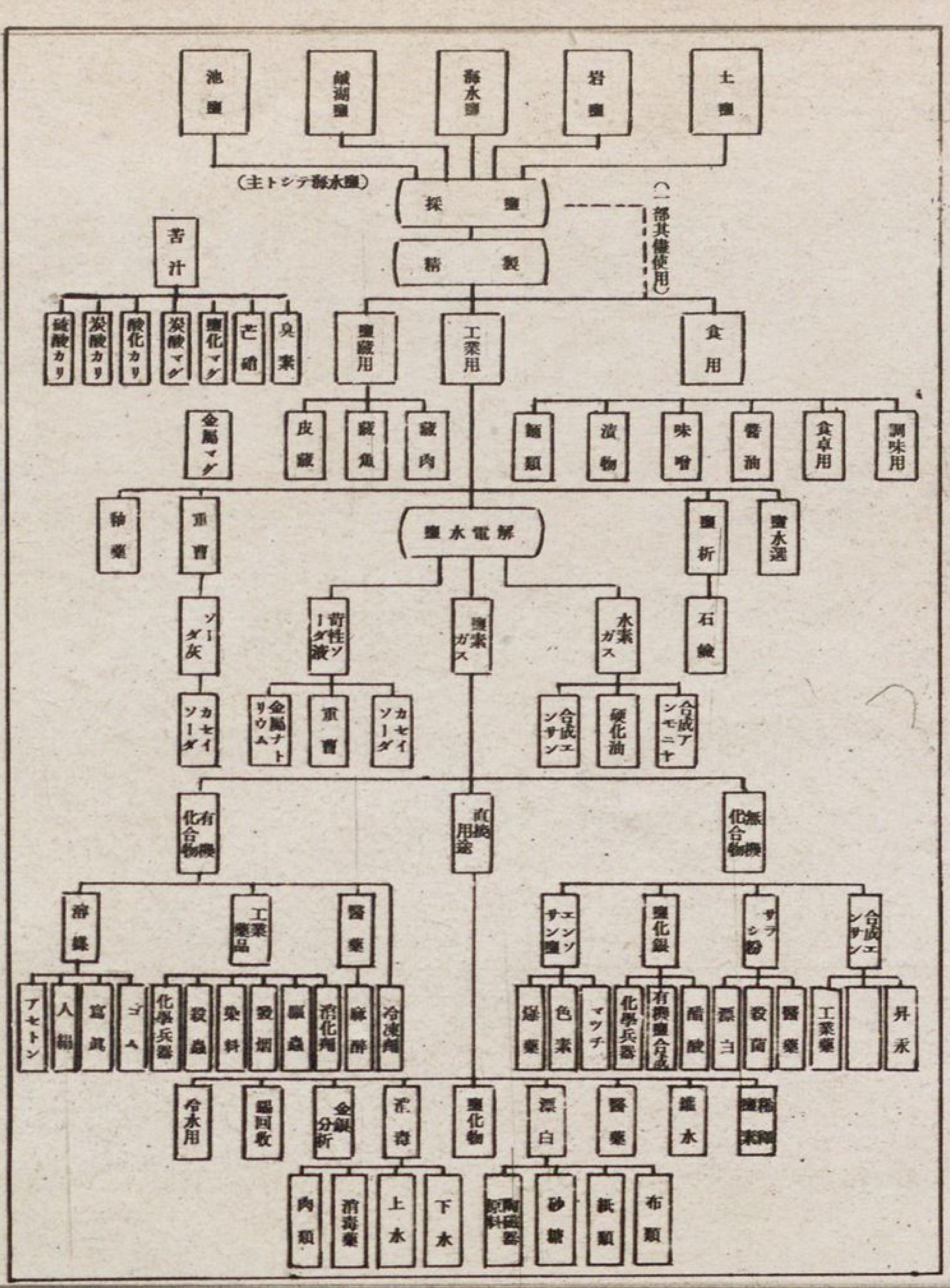
日本における鹽の生產はせいぜい國內食用を自給するくらゐで、工業鹽の尨大な需要に對しては、到底國內鹽では賄ひ切れない事情に置かれてゐる。それで支那事變前には中國の豐富な海鹽資源も抗日國民政府の對日輸出禁止政策のため、我が國はこれを十分利用できぬ狀態であつたから、一部を朝鮮、滿洲からの輸移入鹽に仰ぐの他、大部分は、海路はるばる伊領ソマリーランド、佛領ソマリーランド、エリトリア、エジプト、トルコ等から、謂はゆる遠海鹽を輸入して化學工業の發展を培つてきたものである。

しかるに今や全支にわたる海岸線は我方の確保するところとなり、且つ鹽の增產五箇年計畫を立て、特に北支に於ては炭業とともに、產業開發計畫の重點として鋭意その實現が促進されつつある。戰時下我が國の非常に增大した需要に對しても、よくそれに應へ、わが國のアルカリ工業に對して絕大なる貢獻を齎らしてゐる。

渤海沿岸400キロ、開拓さへすれば鹽の資源は安泰であらう

鹽 二

鹽ヲ原料トスル製品及ビ用途



包頭附近の天然曹達、一望無限の大平原に霜を降したやうに曹達がつゞく

塘沽曹達工場の一部

塘沽曹達工場

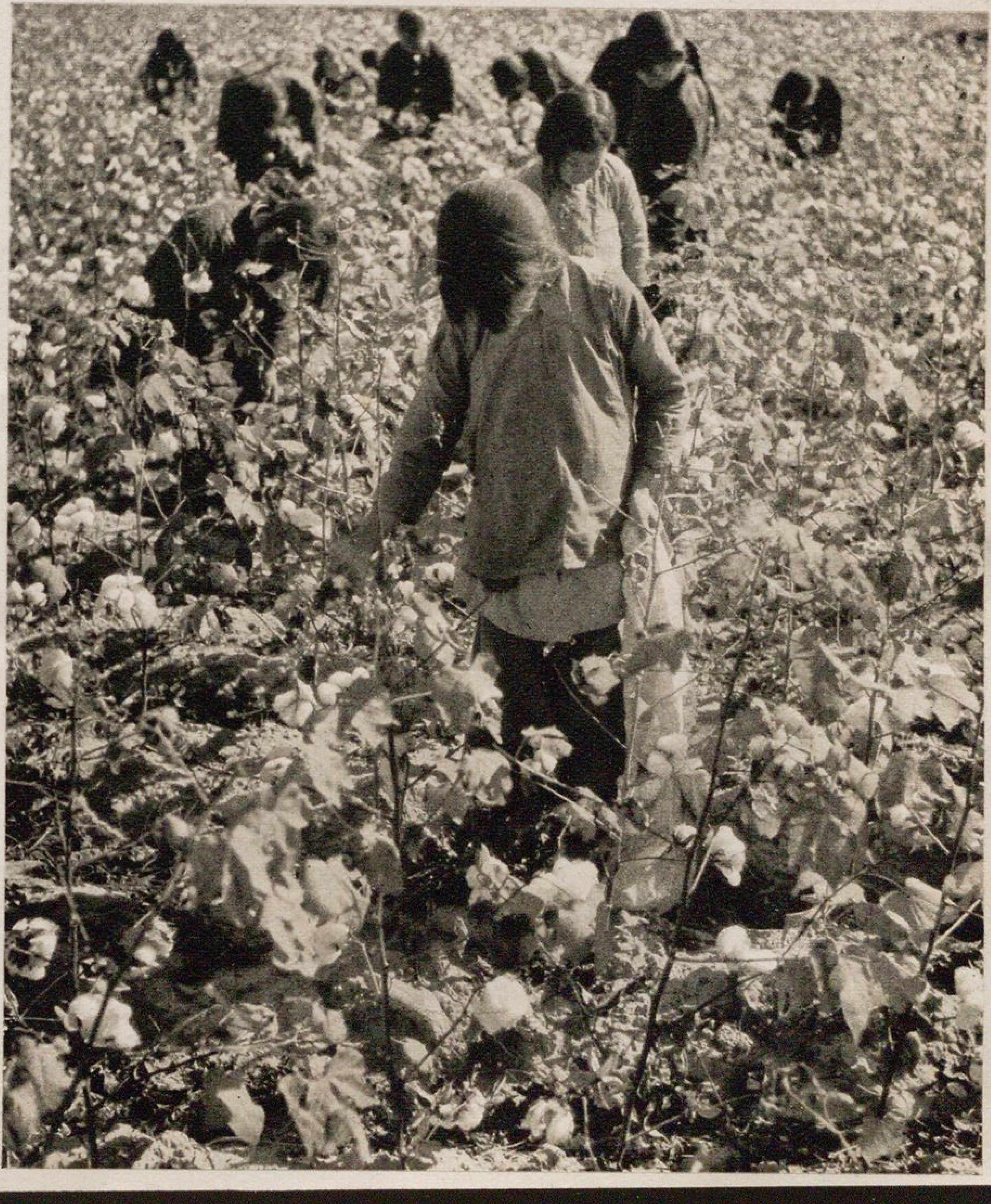
棉花

綿は昔から「白色の黄金」といはれる魅力を持つてゐたものである。アジアを遍く彷徨したマルコ・ポーロの念頭にも、新大陸を發見して地球の丸いことを實證したコロンブスの想像のなかにも、また、アフリカの南端を迂廻するインドへの海路を發見したヴアスコ・ダ・ガマの欲望のなかにも、棉花と呼ぶ美しい純白な寶物をつけた樹の茂つてゐるアジアの土地の影像が强烈に抱かれてゐたのである。

（次頁につゞく）

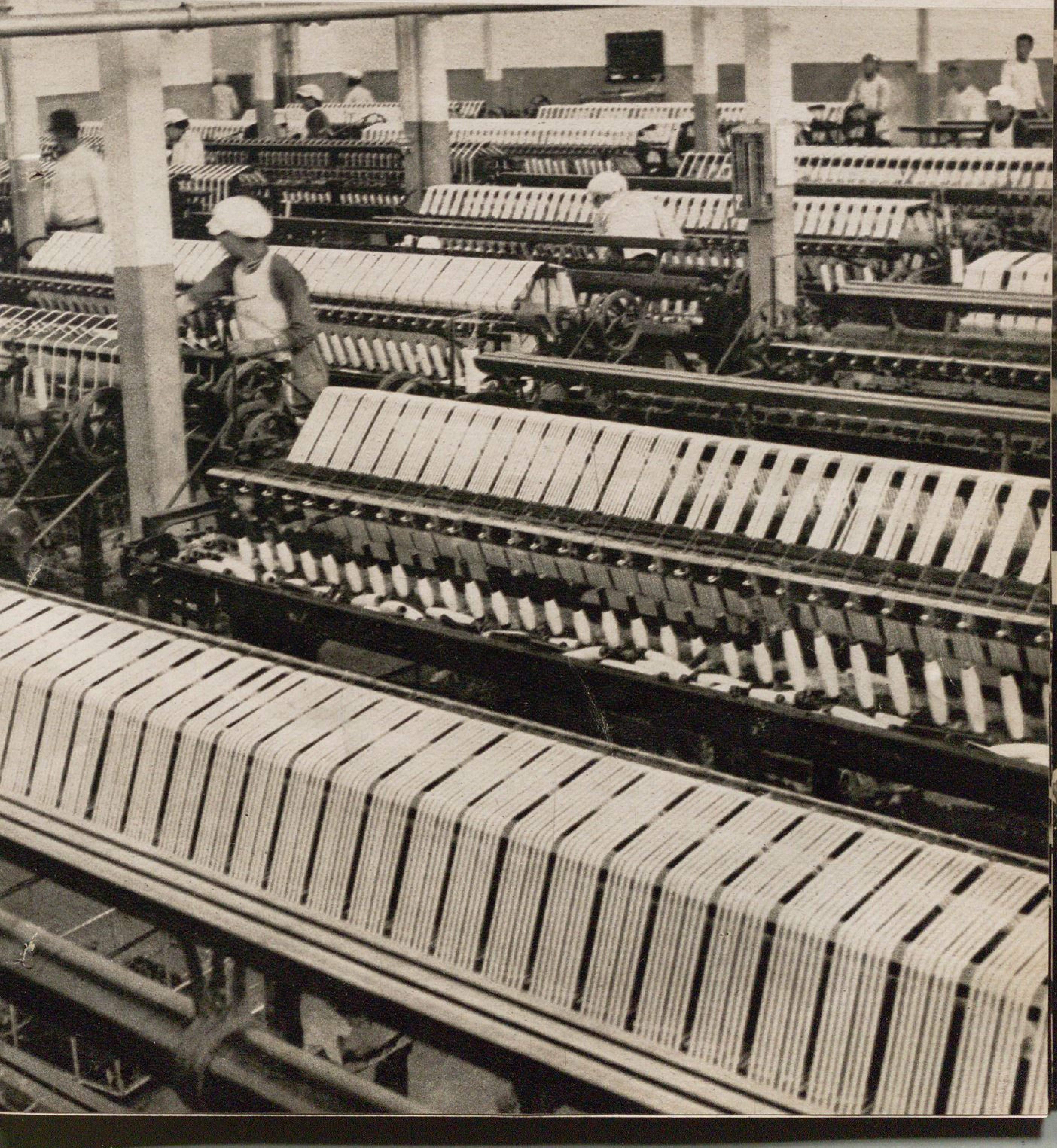
棉花の野積、天津商品撿驗局

棉花の採取（華北交通棉作試驗場）



紡績

以來技術の時代が拓けて續々と劃期的な機械が發明され、人類の生活に大きな變化が與へられたが、さらに躍進して綿製品の國際的市場爭奪戰へと進展した。同時にその舞臺裏では一層激烈な棉花資源の爭奪戰が行はれた。イ



ンド問題、エジプト問題、アフリカ・スダン、エチオピヤ問題、みな、しかりである。

さてこのやうに熾烈な國際經濟戰の上で爭奪の目標となつてゐた棉花資源の問題を我國はいかに處理してきたのであらうか。

日本は、最近の半世紀のあひだに紡績國として世界の首位に上つた。大阪はイギリスのランカシヤの繁榮を十數年前に凌駕してその製品は世界を席卷したのである。しかし、その原料の點となると遺憾ながら内地の棉作は質量共に言ふに足らず、原料棉花は殆んど全部をアメリカ合衆國、インド、エジプトからの輸入に依存してゐた。昭和十一年度においてその輸入總額は八億五千萬圓、我國總輸入額の二二%を占める狀態であつた。しかし其の後朝鮮、滿洲、華北の棉作地帶に漸次依存率を高めてゆき八四―九五%までを中國の棉花によつてゐたのである。大東亞戰爭の勃發は自給自足の必要をいよいよ決定的にしたのである。支那は北米、印度に次ぐ世界的棉産地で世界産額の一〇%を占めてゐるが、北支では今後我が優秀な技術と指導によつて年産一千萬ピクルを目標に増産へ眞摯な努力をつゞけてゐるのである。

華北の紡錘約百二十萬錘（青島工場）

邦人工場に働く姑娘たち

羊毛

北支の住民は羊毛を絨毯にするものとしか思つてゐない。こゝの羊毛はそれくらゐ品質が不良で、天津絨毯の名を世界に轟かしたくらゐ敷物以外にその使途がなかつたのである。

だから羊はこれまでは主として食用と皮革用に飼育されたものであり、羊毛については殆んど考慮が拂はれてゐなかつたのである。濠洲の優良種に比べるとその十分の一の收毛も出來ないのである。

では北支の土地は良質の緬羊の收穫に適しないかといふに、決してさうではない。北支から地つゞきの甘肅、青海地方原産の蒂羊は、質量共に世界に冠たる羊毛を持つてゐるのである。

世界的羊毛の消費國である日本を隣に控へ、しかも大東亞戰爭は從來のままの狀態にこれを放置しておくことをゆるさなくなつたのである。華北交通華北緬羊改進會等有力な現地機關によつて着々品種の改良、增收に努力が拂はれつゝある。

(尙一九三四年度天津から輸出された羊毛は約二十萬担であつた)

ダブスノール附近の羊の放牧、蒙古の羊の數は不明である

羊毛の輸送（包頭）

毛皮を運ぶ駱駝（包頭）

皮革

牛、馬、羊、駱駝等豊富な皮革資源を持ちながら、北支・蒙疆の皮革工業は原始的手工業の域を脱し得ず、その製品は不良で、殆んど大部分の皮革は天津を經て米・獨に輸出され、加工の上再輸入してゐた狀態であつた。

皮革が軍需品として重要な使途を持つことは言ふまでもない。

東洋から舶來ボックスを驅逐して優秀なる東洋皮革を造り出すことは、我々日本人に課せられた一つの任務である。

包頭に於ける邦人經營の皮革工場、なめし作業

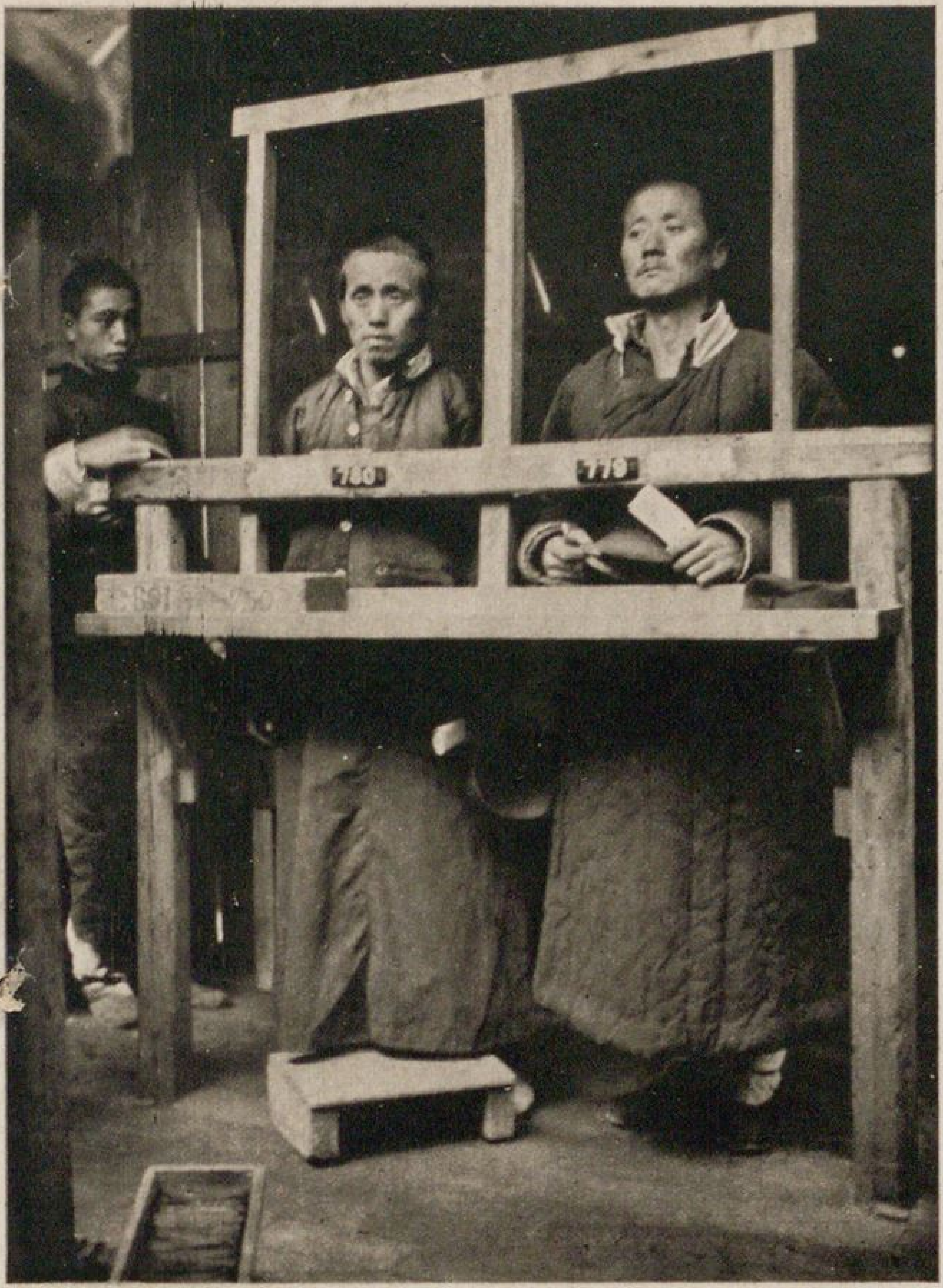
皮革の染色作業

皮革の乾燥

人的資源

戰爭は大量の勞働力を要求する。米英擊滅へ同生共死の理想をめざして日滿華の勞働力は適地適用の盛んな交流を示し、日一日と計畫化の道を躍進しつゝある。

北支では年々百萬の勞工を滿洲國に送り、同國の戰時經濟は實に彼等によつて支へられてゐるのであるが、更に參戰華北にあつては、その豐富な資源の增産增送に果しつゝある彼等の役割



身分證明書用寫眞の撮影

出稼ぎ木匠

列車を待つ勞工の一家、滿洲に移住するものが多い

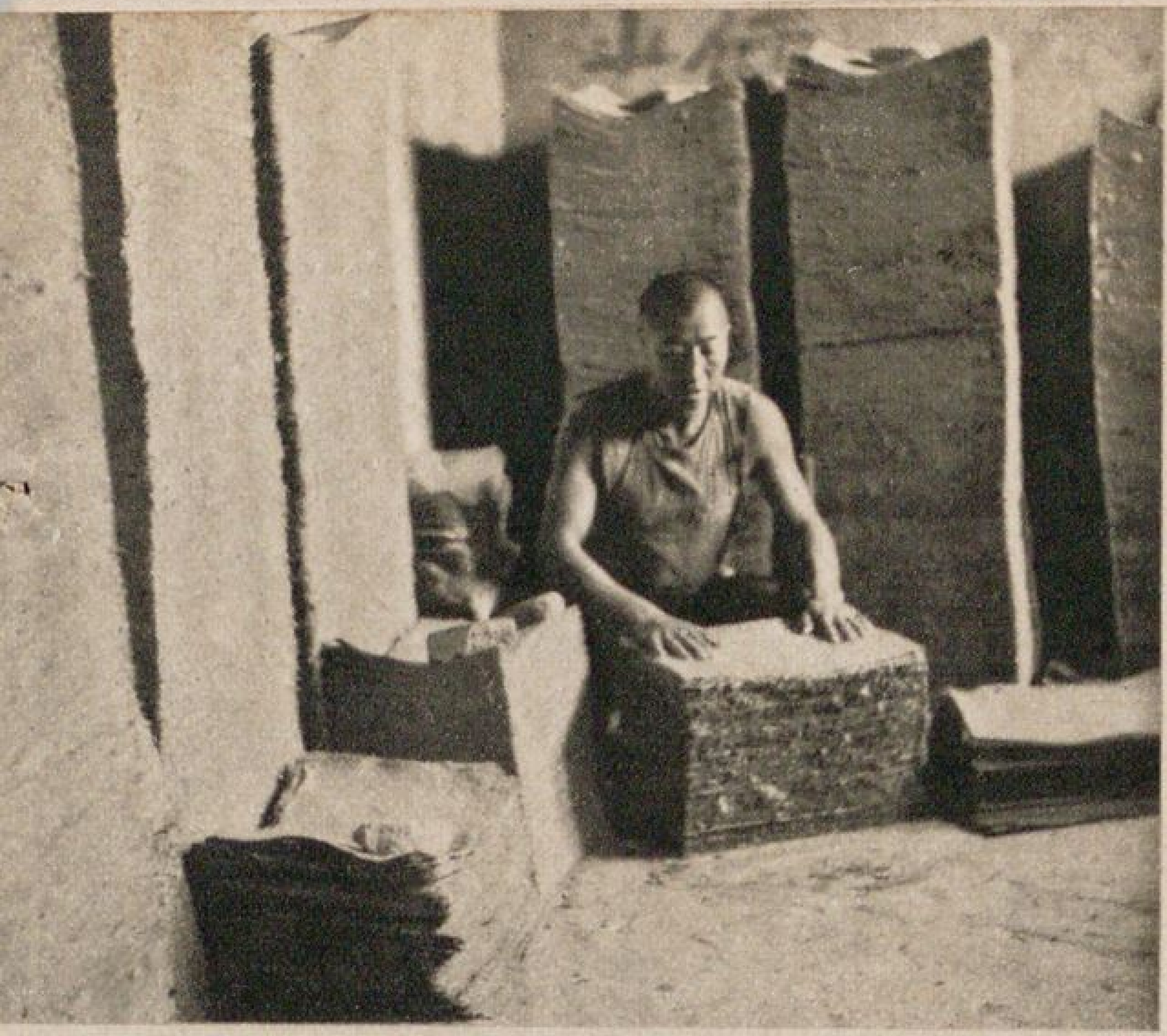
はこれまた高く評價されなければならないのである。

彼等の故郷河北、山東、河南の地が何故年々斯くも多くの勞工を產むか、それには種々の理由があり、華北一帶の生活空間がすでに一定の限度に達してゐることを示すものであらうが、また一方華北自體の中に主動性のあることも事實なのである。そのことは、華北人の生活力の强靱さを語るものである。この素質の問題こそ、共榮圈建設計畫の中に考慮さるべき重要な基本問題であらう。

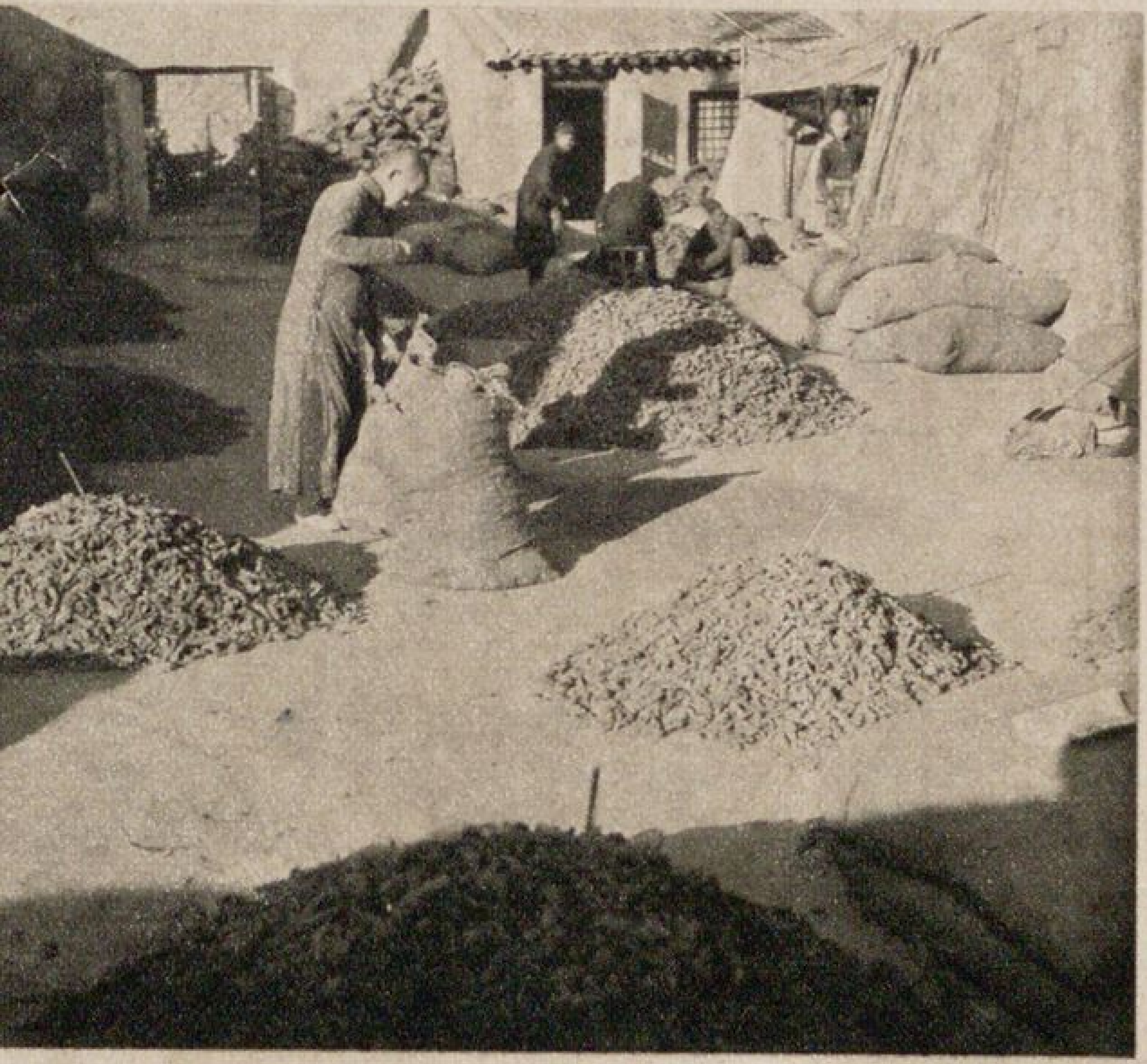
勞工の全財產はこれだけ

列車からあふれる勞工の群―滿洲への送輸は年百萬人に達す

其の他の資源と產業



草紙は北支到る處で造られてゐる。これは、ちり紙、包裝等に使はれ殆んど民需を充たしてゐる。



漢法藥の語源を持つ程に廣大なる支那は漢藥の原產地である。舶來の藥品輸入杜絕の折柄、その代用としてこの豐富な漢藥を使へないものだらうか

古來支那は世界的陶器の產地であつた。今日では日本に押されて見るかげもないが、それでも國內自給自足は充分である

（京漢線彭城鎮

支那卵と云へば日本の皆樣もよく御存じの筈である。青島天津ではこれを粉末にして御菓子の材料として多量に輸出してゐる

烟草の栽培は山東省が最も盛んである。前大戰當時歐洲向け大量輸出をなして以來、山東烟草も質量共に向上を示してゐる

鹽

東亞共榮圏に於ける
北支鹽の役割

我々の健康を保持するためには、一年に十キロ程度の食鹽を必要とすると云はれてゐる。日常生活から切り離すことの出來ない貴重な物資である。だが今日では鹽の用途としては、化學工業の基礎的原料として、一層の重要性を加へて來た。

工業鹽の主要用途は、鹽の成分たるナトリウムと鹽素とを利用する工業の原料としてであつて、特に人絹、人纖、洋紙等の製造に必要な苛性曹達、硝子工業其他幾多の工業用原料として缺くべからざる曹達灰、毒ガスの原料や醫藥品、工業藥品たる無機性、及び有機性鹽（化素）化合物の原料たる鹽素とは、その最も基礎的なものである。戰時には、直ちに化學兵器の製造に轉換できる工業が多いことも、周知の事であらう。

從てこの資源を豐富に且つ安價に確保することは、我々が日常生存を維持するために絶對必要であるばかりか、一國產業の興廢、一國國防の盛衰に影響するところ極めて大きく、世界列强ともこの資源の獲得に腐心してゐる現狀である。

今日我が國は世界有數のアルカリ工業國であつて、近年苛性曹達の産額は世界で二、三位、曹達灰の産額は世界で五、六位を占め、昭和十年頃から相當量の輸出を見るほどになつてゐるが昭和の初期には未だ〳〵その輸入國であつて、苛性曹達の需要の約六割が輸入されてゐた。しかし、今日では當時に較べてその國内需要は數倍增大してゐるが、なほ且つ餘りあるほどの躍進振りである。

同時に我が國の鹽の消費用途に於て昭和の初期と昭和十二、三年頃とを較べると、この化學工業の發展に卽應する變化を如實に示してゐる。卽ち、昭和元年には鹽の總消費高中、工業用原料としては、僅に一二・三％に過ぎなかつたものが、昭和十二年には六一・三％を占め、工業鹽の劃期的飛躍を見ることが出來る。

日本の工業鹽

日本に於ける鹽の産額は、昭和十一年頃の統計でみると、國內鹽は食用鹽を自給するくらゐで、工業鹽の尨大な需要に對しては、到底、國內鹽では賄ひ切れない事情に置かれてゐた。我が國は四面に蒼い海を環らしてゐるのであるが、氣候、濕度の關係上、採鹽に限度があり、また中國や歐米諸國に見ろやうな岩鹽だの池鹽だのと云ふ形の資源を缺いでゐるから、いきほひ化學工業の需要に應ずる工業鹽は、海外からの供給に俟たねばならないのであつて、嘗ては、我が國にはアルカリ工業を起し得ずとまで云はれた程である。

今日、工業鹽の勢力圏内での自給確保は、東亞共榮圏建設の上から絶對的に必要である。今、日本工業鹽確保の苦心の跡を見れば、支那事變前には、中國の豐富な海鹽資源も、抗日的國民政府の對日輸出禁止政策のため、我が國はこれを十分に利用できぬ狀態であつたから、一部を朝鮮、關東州からの輸入鹽に仰ぐの他、大部分は海路はるばる伊領ソマリーランド、佛領ソマリーランド、エリトリア、エジプト、トルコ等から、謂ゆる遠海鹽を輸入して化學工業の發展を培つてきたものである。

この遠海鹽は純度高く、品質優良ではあるが、これはヨーロッパやアフリカ行きの歸り船の運賃が比較的安かつたから輸入できたのであつて、一旦戰時ともなつて、貿易杜絶の場合には、これに依存することの危險性はまことに測り知れないわけである。況んやアルカリ工業の國防產業的性格を想へば遠海鹽依存から離脫して、鮮臺の移入鹽乃至滿關支の近海鹽依存へ轉換することは、世界大戰勃發の機運漸く濃化するに及んで、我が國化學工業にとつて焦眉の問題となつてきたのである。

すなはち、我が國は昭和十一年に至つて、遠主近從から近主遠從への轉換

内容

第五巻 五月號

グラフ

塘沽の鹽田……………表紙
石炭……………1
鐵……………5
礬土……………9
鹽……………11
棉花……………15
羊毛……………19
皮革……………21
人的資源……………23
其他の資源と産業……………25

よみもの

東亞共榮圏に於ける 北支鹽の役割……………26
北支の棉花……………31
華北に見る土法炭礦……………35
華北の人的資源……………37
安國藥王廟と漢藥……………39
華北蒙疆鐵道略圖……………41

問題を正式に採り上げ、近海鹽の增産五ケ年計畫を樹立して、これに邁進する事になつた。次で昭和十一年北支に親日的な冀東政權が生れ、長蘆鹽の對日輸出が初めて可能となり、やがて興中公司が對日輸出と鹽田經營に積極的に乘り出して來たのも、この方向轉換の具體的な現はれであつた。

　支那事變の勃發後、近海鹽の增産計畫は更に強化され、特に北支に於ては鹽業の開發は、炭業と共に産業開發計畫の重點として鋭意計畫の實現が促進され、今日着々、豫定通り進行して、戰時下我が國の非常に增大した需要に對しても、よくそれに應へ、我が國のアルカリ工業に對して絶大なる貢獻を齎してゐる。

　今日、南方諸國は東亜共榮圈の現實の構成要素となるに至つた。が、我が國は南方交易物資の裏付物資として人絹、人纖、綿布等を增産しなければならないのであるから、その製造用、又は漂白用として曹達類の需要を增し、そのため、益々內地の工業鹽需要を增加するわけである。けれども、この南方地域の鹽業は、後段になほ觸れるやうに、遠い將來は別として、當面卓急に大量の輸出餘力を持ち得る底のものではなく、南方諸國の食用鹽の自給自足に振り向けらるべきものである。卽ち、この意味からも今後益々北支鹽の重要性は加重されて來たわけである。

北支の鹽産地

鹽は、石炭、鐵鑛石、棉花と並んで北支四大資源の一に數へられ、その産地は、海鹽としては河北省渤海沿岸（長蘆鹽）、山東半島南北兩岸（山東鹽、青島鹽）、池鹽としては山西省の運城（河東鹽）蒙疆にはダブスノールの他、湖鹽が多く存在してゐる。この內日本と關係深いのは長蘆鹽と山東鹽である。

　長蘆鹽場は、事變前には豐財場と蘆臺場の二場だけに過ぎなかつたが、今日では、これに新規鹽田の開拓が加はり、荒廢鹽田の復活も加はつて、塘沽、新河、鄧沽及び大沽の四灘がある。

　山東鹽場には山東半島を北岸から東へ廻つて、二千餘支里の間に永利、王官、萊州、威寧、石島、金口、青島及び濤雒の八場約一萬三千町歩の鹽田がある。江蘇の海州鹽場も嘗ては山東鹽場の一に數へられてゐたが、事變後、これは華中の管轄に變更された。

天日製鹽

　我が國採鹽の九割以上は、瀬戸內海岸で産出されるが、その製鹽方法は、例へば、十州鹽場のやうに、海岸の干潟の砂地に外堤を築いて、その內側に鹽田を造り、ここに海水を導入し、毛細管現象によつて滲み上る海水中の鹽分を、天日と風力で撒砂に結晶せしめた後、この撒砂を掻き集め、沼井（ヌキ）と稱する溶解場の上方に於て撒砂に濃厚鹹水を注ぎ、より濃厚な鹹水を沼井に流下滴出させ、かくして得た鹹水を煎熬して微細な鹽の結晶を得る、といふ煎熬法の一種である。

　ところが北支では、臺灣、朝鮮、關東州、地中海岸などの製鹽法と同じ方式である天日製鹽法を採つてゐる。

　もつとも、黃河の舊河道を中心とする廣大なアルカリ土壤地帶、卽ち河北省七十餘縣、山東省四十二縣の各地には、土鹽といつて加里と鹽を含んだ土砂が採集されるが、この土鹽から鹹水を採取して煎熬し食鹽を採つてゐる。

　さて、天日製鹽といふものは、一口に云へば、海水を鹽田に導入し、天日と風力で蒸發させて濃縮鹹水をつくり飽和鹹水となつた時、自然に結晶させてこれを採集する方法である。

　この天日製鹽と、內地の煎熬鹽とを較べると、後者は鹽田一町歩に約八人の鹽夫を要するが、前者は一人弱で足りるし、また後者は生産鹽の數量に對し、同量以上の石炭を要するが、前者は天日と風力だけで事足りるのであつて、生産費の點からいつて兩者は非常に大きな開きができてゐる。

　北支天日製鹽の自然條件、並に鹽田構造を概說すると次の通りである。

イ　自然條件

　第一に北支の氣象條件は

（イ）氣溫が高いこと。卽ち、採鹽期（四月―十月）の平均溫度が一七・二度乃至二〇・六度である。

（ロ）雨量が少い。特に、長蘆方面では、採鹽期に非常に降雨が少く、天津では、年合計に於ても五三四・三粍の少量であるが、そのうち採鹽期には僅に二六・五%の一四一・五粍降るだけに過ぎない。

（ハ）風力が強く、空氣が乾燥してゐる。

　結局、蒸發量が大きいといふ條件が重要な要素であるが、一年間に蒸發する蒸發量から、一年間の雨量を差引いた「實際蒸發量」が、氣象的條件の重要な指標となるので、例へば廣島はマイナス三一三粍、臺南はマイナス三三粍で、何れも雨の降る量の方が大きいことを示してゐる。これに對し、大陸方面を見れば、青島がプラス八一六粍大連がプラス九一二粍で、何れも蒸發量の方が大きいことを示してゐるが、天津に至つては實際蒸發量は更に大きく、一九一八年から三八年までの統計から平均をとると、プラス一六〇〇粍といふ驚異的な數字を示してゐる。

　第二に北支の地形條件は、海岸に面する土地が平坦且つ廣大である。

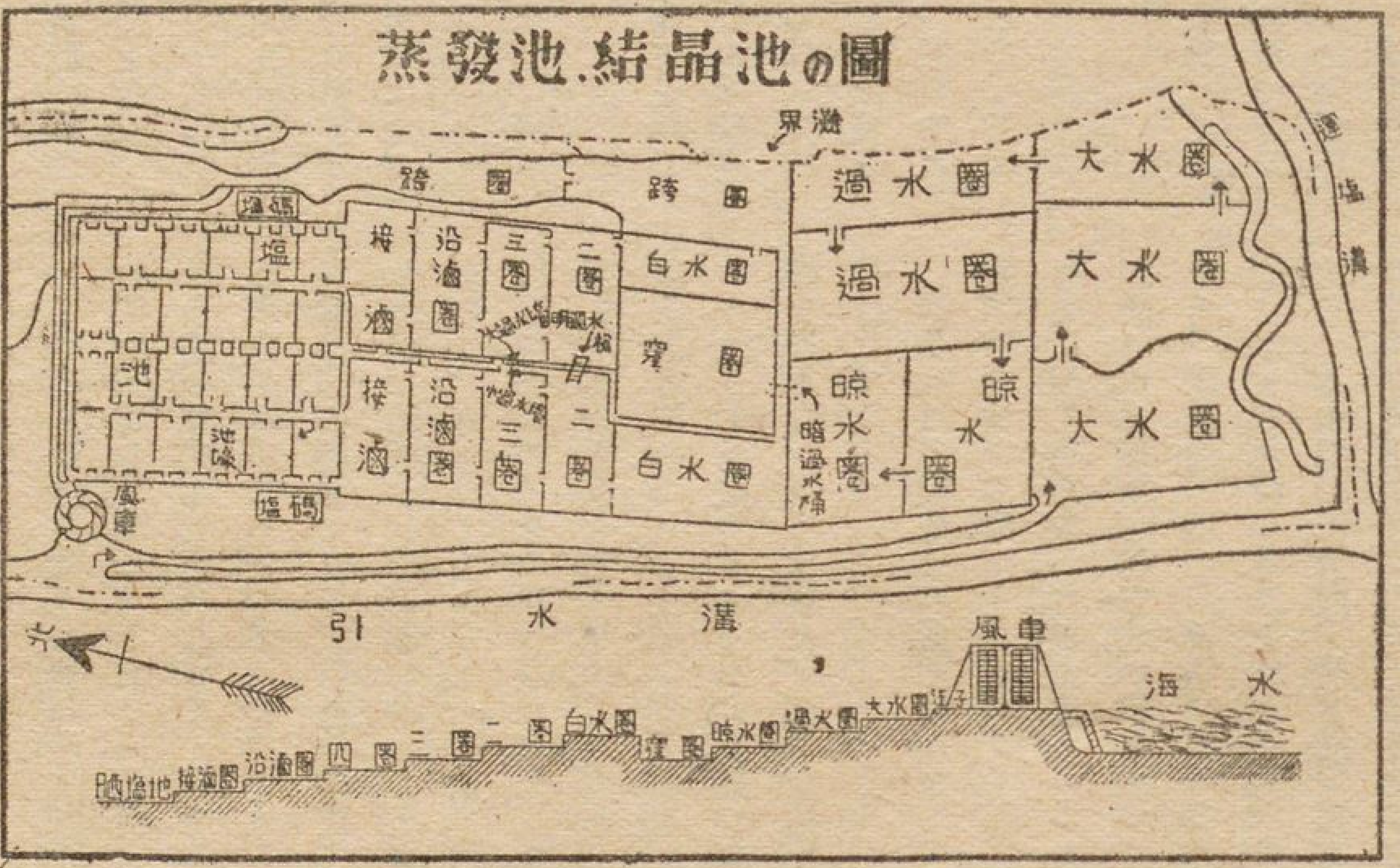
　長蘆は、海岸に面した坦々たる平野

で、陸地の奥まで海邊と殆んど標高の差を認めぬほどの緩勾配であるから、陸地に入込んで鹽田を築いても海水をたやすく導入することができる。

山東では、平坦な遠淺の干潟地が續いて、干潮時には數粁以上も海底が露出して鹽田築造に天惠的な地形をなしてゐる。

尙、長蘆の鹽場は、白河及び北塘河の河尻に位し、絕え間なく淡水が流れ込んでゐるから缺點と云へぬこともないが、この三角洲が廣大な平坦地であることは、右の缺點を補つて餘りある。青島鹽場には、膠州灣内に流れ入る大沽川、白砂川、皀戸川、揚川等があるが、大沽川に年中少量の河水を見る他、雨期以外に河水を見ない。

第三に、地質の條件は、土質に粘着力があつて、鹽田に導入した海水が漏洩しないこと、降雨によつて鹽田の畝や溝が毀れぬこと、即ち强粘土七割、砂土三割の土質が特に理想的である。



蒸發池、結晶池の圖

長蘆の地質は、北塘河及び白河の流出泥土の沈澱したもので、赤褐色を呈し、粘土の含有量が豐富であるし、更に砂の粒度が微細で而も微量である。

又廣範圍に亙つて土質が均一である。

山東の土壤は緻密な天然粘土で、地下數尺に至つても同質であるから、海水の浸透によつて消失破壞される惧れがない。

以上、北支の氣象、地形、地質の三條件は、天日製鹽に必要な基本要素を具備してゐるが、これに加ふるに、經濟的、社會的な條件として、鹽田附近に良港を有すること、消費地に近いこと、低廉豐富な勞働力が容易に得られること、電力の供給の便があること等の點に就ても、長蘆、山東、何れも好適な條件を具備してゐる。その上、長蘆鹽は、目下着々進行中の塘沽新港工事が完成すれば、一層有利な條件を具備することになるわけである。

ロ　鹽田の構造と機能

右に述べたやうな自然的條件の下に天日製鹽が行はれるが、製鹽の骨子は海岸又は干潟地に鹽田を構築し、汲入れた海水を蒸發させる際に、海水中から鹽化苦土、硫化苦土、硫酸苦土、硫酸石灰、鹽化加里等の謂はば不純物を取り除けて、鹽化ナトリウムの結晶だけを析出するやうにし、また鹽田の土砂が混入しないやうに搔き集めることである。

長蘆の鹽田は、揚濱鹽田と呼ばれ、陸地に入込んで構築され、青島の鹽田特に邦人經營の鹽田は、入濱鹽田と呼ばれ、遠淺の海中に突堤を築いて、その内側に構築されてゐる、といふ違ひはあるが、鹽田構造の根本的な仕組に就ては大同小異である。そこで先づ長蘆鹽田を例にとつて、その構造と各〻の機能の概要を述べる事としよう。

一般に鹽田は、海水溜（汪子）、蒸發池（滷臺）、結晶池（鹽池又は池子）を主要部分とし、これに外堤、海水溝（納潮溝）、內堤、鹹水溝、各池區劃の畦畔、排水溝、堆鹽場（鹽坨）等を附屬部分としてゐる。

先づ海水を海から引込むため、海に向つて平行に幅四米乃至八米、水深一米程度の海水溝があり、これから更に數條の枝溝（內溝）を分岐させ、總ての鹽田へ配水する仕組にしてゐる。海水の取入口は水路の兩側に二三尺土砂を盛り上げて築堤とし、その先端にも水門など設けずに、たゞ土砂で締切り高潮時にこの土堤を除いて海水を流入させるので、この場合風車、ポンプ等の揚水器も用ひずに海水は自然に流れ込んでくる。

右の海水溝から流れ込んだ海水は、先づ海水溜に導かれる。こゝは深さ〇・三米程度で、海水を一時こゝに靜置して沈澱物を除くのであつて、その構造は次の蒸發池の畦畔を幾分高めたものに過ぎない。

次に鹹水は海水溜から蒸發池へ移さ

れるが、これは地勢に應じて適當に配置され、大體十段階位に區分されてゐる。地盤の勾配が甚だ緩漫であるから各池に落差をつけ得ないので、自然その面積が廣大になり、更に長蘆の特徴として謂ゆる二段落差の構造をなし、第一段から四、五段まで順次一定の落差をつけ、六段邊りから風車またはポンプで揚水して再び順次各段に落差をつけて次第に低下せしめる樣式になつてゐる。蒸發池の各段の名稱はそれぞれ地方によつて異るが、大水圈、過水圈、晾水圈、窪圈、白水圈、二圈、三圈、四圈、沿滷圈、接滷圈などと呼んでゐる地方もある。海水はこの蒸發池の各段をあちこち引廻される間に漸次濃縮され、いろ〳〵な不純物が濃度と溫度の加減で沈澱してゆく。濃縮された海水はボーメ二四度程度のほゞ飽和した鹹水となつた時、最後の結晶池に流れ込む。

鹹水の濃度は、浮秤（比重計）で測れば素人にでも一見明瞭に判別できるが、熟練すれば手首を浸しただけでも測定できるといはれてゐる。關東州の鹽田では蓮の實を用ひ、それがポツカリ上に浮び上がつてくると飽和鹹水といふことが判るとされてゐるが、長蘆では多く家鴨の卵で測つてゐる。

さて結晶池では、一寸五分程度に張つた飽和鹹水を數日乃至一、二週間靜置すると、鹽の結晶を析出する。最盛時には一日位で析出する。

この結晶池は長蘆では概ね十五間平方位に一定してゐる。そして一箇所に數十箇の鹽池を集中せしめて、謂ゆる集中鹽田の形態をとつてゐる。これも長蘆鹽田の特徴である。結晶池の整地は非常に重要で、蒸發池のやうな傾斜がなく、ローラーをかけて一律に水平になつてゐる。その池の底は粘土質土壤を用ひて漏水せぬやうに搗き固め、鹽を掻き集めるとき土砂が混入しないやうに、また蟹やゴカイが穴を掘つて底を崩さないやうに絶えず深い注意が拂はれてゐる。

結晶池は蒸發池より低く築かれて、濃縮鹹水が自然流下するものと、蒸發池より稍〻高く築いて揚水するものとがあるが、長蘆では後者の形を採つてゐる。結晶池にはその周圍に幅一〇米深さ〇・七米程の滷濠といふ小溝があつて、鹹水溜、母液溜、排水溜等種々の目的に使用されてゐる。結晶池の鹽田面積總體に對する割合は大體十分の一內外になつてゐる。

結晶池で鹽が大部分析出され、母液から分離されると、母液は二、三回繰返して蒸發池に戻し、新らしい海水と共に使用される。それで、蒸發池から次ぎ次ぎに濃縮鹹水を注入すると結晶池の鹽の層は漸次厚さを增してくるので、大體二糎前後の厚さに達する每に木楸（木製のスコップ）で結晶を破碎し、鹽耙子で掻き集めて揚鹽し、畦畔に堆積する。

ハ、製鹽の時期

長蘆鹽の採鹽期は、空氣が乾燥し、溫度の高い三月上旬から十一月上旬に至る八箇月間で、このうち七月中旬から八月中旬に跨つて約一箇月は降雨季であるから、一般に製鹽を中止してゐる。それでこの期間を中心として前の期間を春季採鹽期とし、後の期間を秋季採鹽期としてゐる。それ以外の期間は結氷のため採鹽は不可能である。

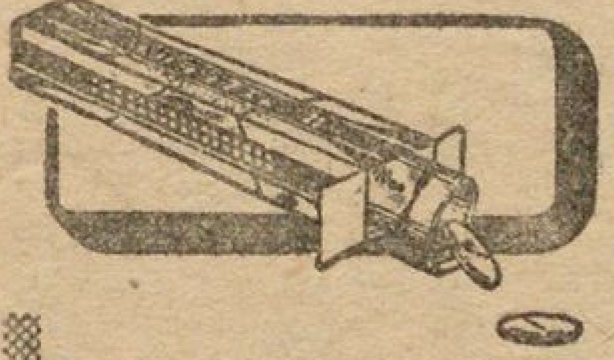
一年中で最も製鹽が旺盛なのは五、六の二箇月で、一年中の收穫の七、八割までがこの春鹽である。

生産と經營

イ、事變前

鹽の生産は、鹽田熟化の程度、位置及び作業技術の如何によつて數量の增減があるのは云ふまでもないが、天日製鹽の場合、特にその年の天候に左右される程度は農作物以上である。

ところで長蘆、山東の生産數量ほど

連鎖狀球菌 葡萄狀球菌
化膿性 慢性 急
に依る
諸疾患
中耳炎
扁桃腺炎
【適應症】
産褥熱、敗血症、肺炎、盲腸炎、面皰、丹毒、急慢性淋疾、化膿性婦人科諸疾患等
錠劑（〇、三） 二〇錠 一〇〇錠
トリラックス錠

製造發賣元
東洋製藥貿易株式會社
大阪市東區道修町

の位かと云ふと、民國二十五年（昭和十一年）の稽核總所年報によれば、長蘆鹽はその年八、三七六千市擔（四一八・三千瓲）、山東鹽は七、五二〇千市擔（三七六千瓲、そのうち青島鹽約三〇〇千瓲）と發表されてゐる。併しこの數量は當時の中國の政治事情に甚しく制約されてゐることを考へなければならない。この數量は、政府の貯鹽場（官坨）に納入され、課稅の對象となつたものの數量であつて、脫稅の「私鹽」と呼ばれるものの數量は勿論こゝには捕捉されてゐないのであるから、實際數量はこれに何パーセントか增したものである。

何れにもせよ、長蘆、山東共、四十萬瓲前後の量は政府が支配し得た數量であるが、當時の生產制限政策の結果作業を休止した鹽田が漸次荒廢していつたのは無理からぬことである。

昭和十二年、興中公司が鹽業に關係してから長蘆鹽の增產計畫を實行するに當つて、先づこの生產制限令を撤廢してもらひ、更に鹽田經營者に資金を貸與して休晒鹽田を復活させ、また既設鹽田にも融資して設備の改良を指導し、その上新たに新規鹽田の開發に乘り出して來た。

ロ、事變後の長蘆鹽田

事變後、昭和十四年八月、興中公司の長蘆鹽田開發上の諸事業を繼承して華北鹽業股份有限公司が設立され、北支那開發株式會社は、創立以來これに投融資して事業の推進に當つて來た。その事業は荒廢鹽田の復舊、既設鹽田の改良、新規鹽圃の開設及び洗滌鹽工場、苦汁處理工場の經營に併せて、軍管理永利化學、久大鹽の二工場を受託經營してゐる。

かくして長蘆鹽の產額は早くも數倍の增產に達し、且つ一町步當りの收量も向上し、鹽田の改良、合理化に著しい效果をあげてゐる。

ハ、事變後の青島の鹽田

山東鹽業株式會社の社有鹽田は、後韓家と女姑口（開設中）にあつて、まだ熟田とはなつてゐないが、海中に石垣を積み上げた整然たる鹽田が築造されてゐて、その構造、配置等も新らしい方式をとつてゐるが、この樣式は漸次、膠州灣一帶の鹽田構造にも普及採用される豫定である。

東亞共榮圈に於ける北支鹽の役割

新たにわが國の勢力圏に編入された南方圈の鹽業をも併せ考へ、東亞共榮圈に於ける北支鹽の地位を確認して置きたいと思ふ。この問題は、共榮圈內の曹達工業の將來性と密接に關聯してゐるが、今日南方圈にはこの種工業は殆んど發展してゐない。更に人絹、人纖、綿紡織工業並に硝子工業も同樣である。これらの製品は、今後我が國の工業が英米製品の在來の市場をも併せて住民の需要を悉く充たしてゆかねばならぬもので特に南方交易の裏付物資として我が國が輸出し得るものとしては、これらの工業製品がその大宗であることは云ふまでもない。

そのために曹達工業の原料鹽が何百萬瓲要求されるか、それは茲では明示出來ないが、しかし從來の最大計畫數量でも到底追ひ付かぬことだけは確かである。その數量は戰爭遂行の眞只中にあつても容赦なく要求されるが、誰がこの負擔に堪へうるかが、問題である。

飜つて南方圈の鹽業狀況を鳥瞰してみると、タイ及びビルマに於ける內需用の岩鹽又は井鹽を除けば殆んど海鹽であるが、大規模鹽業には北緯十度乃至二十度の間が最適地とされてゐる。即ち、赤道附近は降雨量多く、乾濕二季が判然と區別されず、廣大な干潟地も乏しく、また海水の鹽分は弱風多雨のため必ずしも多くない。

これに反して南北緯十度から南北回歸線附近に至る地帶は每年數箇月間の乾季があり、日照りも赤道と同程度に強く季節風のため蒸發量は甚だ多い。この地帶に包含されるところは佛領インド支那、タイ、フイリツピン、ニューギニア西海岸、ジャワ及びマヅラ島等に局限されるわけである。

ゆく／＼は南方鹽に對しても我が國の技術的經營的指導によつて積極的增產に向はしめ、その對日輸出量を增加せしむることは必要であらうが、今後著しく增强される曹達工業の需要を充たし得るものは北支鹽であると、われわれは結論せざるを得ない。けだし、北支の鹽場は立地條件上極めて優秀であり、地理的條件からも我が國への供給が有利な地點にあること、且つ新規鹽田開拓の餘地もまだ／＼十分に殘つてゐる、等々の好條件に幾多惠まれてゐるからである。

即ち北支鹽は、こゝ當分增產の一路をまつしぐらに突き進んで、日本の化學工業に最大の寄與貢獻をしなければならない。また將來、南方鹽が增產されて、その對日輸出が增加しようともそれまでには、わが國の曹達工業もまた急速なピツチで發展してゆくし、更に北支自體の問題として、將來の工業地計畫上、アルカリ工業の現地起業は必ずや實現せられるであらうから、北支鹽の需要は、ます／＼旺盛となり、東亞共榮圈に於ける北支鹽の地位は、その重要性を加重せられるであらう。

棉花

北支の棉花

棉花は、過去數世紀前から「白色の黄金」であつたし、また將來に於てもますくその黄金的價値を高めて行くだけである。

全く、それは近代の資本的商品經濟を背景としてハツキリと黄金にたとへられる以前、黄金と同じやうな、或はそれ以上の吸引力を以て、多くの冒險的な世紀的な探險家を引きつけたのであつた。

即ち、その足跡アジアにあまねく縫はれたあのマルコ・ポーロの念頭にも、新大陸を發見して地球の丸いことを實證した最初の一人であつたコロンブスの想像のなかにも、また、アフリカの南端を迂廻するインドへの海路を發見したヴアスコ・ダ・ガマの慾望のなかにも、棉花と呼ぶ美しい純白な寶物をつけた樹の茂つてゐるアジアの土地の影像が、强烈に抱かれてゐたのである。かくして、棉花への夢のためにも新らしく國々が發見され、やがて、時代は更に、綿製品の國際的市場爭奪戰へと進展したのであるが、同時にその舞臺裏では、一層激烈な棉花資源の爭奪戰が行はれた。

インド問題、エジプト問題、アフリカのスダン、エチオピヤ問題、みな然りである。

このやうに國際經濟戰の上で爭奪の目標となつてゐた棉花資源の問題は、今日、東亞共榮圏内に於ては、いかに處理されてゐるか？

×

日本は最近の半世紀のあひだに、世界的紡績國になつたのであるが、原料綿となると凡て米國、インド、エジプト及び支那からの輸入に依存してゐたのである。

即ち、昭和十一年度の輸入總額は八億五千萬圓、總輸入額の二二%を占める狀態であつた。だが、このやうな狀態がたゞ漫然として許されてゐたわけではない。紡績用棉花は、或は朝鮮で或は滿洲で、特に世界的棉作地帶たる華北で求めることが出來るやう、多くの努力が拂はれて來た。

すでに、近年の傾向として漸次、わが國の棉花輸入は東亞共榮圏内の棉花への依存率を增加してをり、その中でも八四—九五%までを中國の棉花によつてゐたのである。さうして遂に昭和十六年、突如として斷行された「十二月八日」は、この轉換の必要をいよいよ決定的に要求したわけである。

では、この要求に答へるべき構想は如何なるものであらうか？

問題は、日本人一億を中心とした東亞共榮圏内の人口大約七億が必要とする原料棉花を、東亞共榮圏内で如何に生產して行くかにあるのである。

×

中國は、世界の棉產國中、北アメリカ、インドに次ぐ第三位で、ロシア、エジプト、ブラジルを抜き、世界棉產額の約一〇%を占めてゐるが、その半は華北に於て產出される。それが今日全共榮圏の要望に應へるべく、困難な一進一退をつゞけながらも、棉花一千萬ピクル獲得の大目標に向つて、農業技術の改善を基礎として一層の努力がつゞけられてゐるのである。

×

そもく、棉花の中國に於ける最初の登場は、西南方蠻族からの貢物とし

さくらフヰルム

躍進日本の代表的フヰルム

一般用に　スペシアルクローム

戸外用に　パンクロF

夜間用に　パンクロ USS

てであるが、これによれば、禹の時代既に棉の貢物があつたことになつてゐるが、禹そのものが全然、神話的存在であるから、それは、はるか後の時代に於ける事實の反映と見るべきであらう。

で、中國で木棉が栽培されだしたのは漢代とされてゐる。宋代となると、もう棉花の耕作されてゐた事は文獻の上でも明らかである。しかし、その當時からずつと元代を通じて、棉作は南方諸省及び揚子江流域のものときまつてゐた。これが黄河流域にも移されたのは明の太祖の時代である。

清朝となると華北諸省に普及するに至り、清末には、ヨーロッパの機械生産による資本主義的商品は、洪水のやうにこの老大帝國を侵蝕しはじめたがなかでも綿絲布の勢は強く、當時の清朝當路者をして紡績事業の奬勵と共に棉作奬勵の必要を痛感せしめてゐる。

そこで紡績原棉たらしめる目的で、清末の先覺者として有名な張之洞によつて、アメリカから陸地棉の種子が輸入されたが、栽培に失敗し、またやがて民國となるや、政府は植棉事業と紡績工業の指導發展に努力し、種々な施設の實施、法令の發布を見たが、尙、續く內亂、政策の不統一、資本の不足等で、所期の發展をなすことは出來なかつた。しかしながら、兎も角この時期を以て植棉事業、棉種改良に對する近代的指導改善の企ての時期に入つたのである。

×

棉花は、本來的には熱帶性の作物であるが、溫帶たる華北の大地の上にもその生育上好もしい幾多の自然的條件が存在してゐる。即ち、

イ、その大陸性氣候の關係上、多季は非常に寒冷であるが、春季に於て急に氣溫が上昇し、夏季に相當高溫となることである。

ロ、次には晴天が多く、從つて降雨の少いこと。いつたいに棉花は乾燥を好むものであり、特に開花、開絮期に於て然りである。

ハ、それから蒸發量は年大約二、〇〇〇ミリに達し（青島附近を除く）、この點でも棉花の發育を旺盛ならしめてゐるのである。

ニ、棉作には又、無霜期間が少くとも一五〇—一七〇日は必要であるが、最低が太原の一六五日で、他は大約二〇〇日以上である。

以上は好もしい條件を列記したのであるが、問題は水である。

水を缺いたならば、以上の諸條件も全く意味をなさない。「洪水か、然らずんば旱害！」は、中國の悲劇であるが、旱害に對しては、鑿井或は河水による灌漑の方法で對抗してゐる。

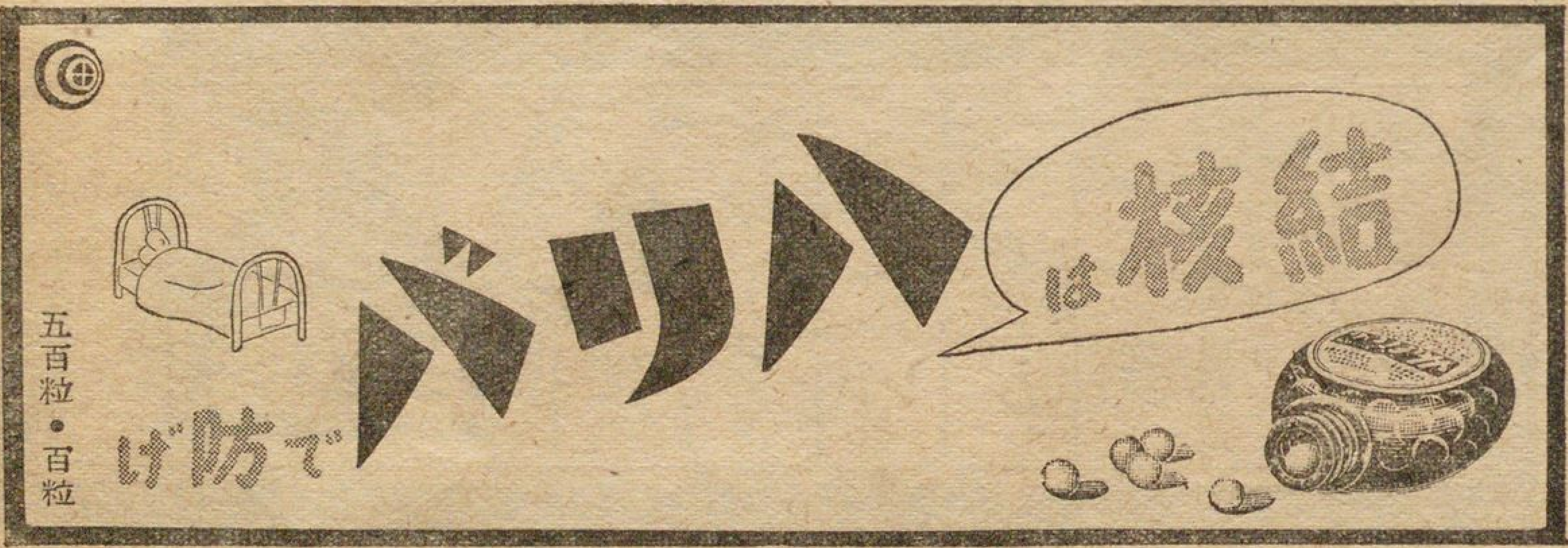
但し、今日の中國の農家經濟では、その普及もまだ〳〵困難で、灌漑面積は河北省でもその全棉田の三〇%せいぜいと見られてゐる。併しまた、此の問題では、華北の土壤そのものが棉作を助けてゐる點を見逃がせないのである。

棉作が行はれてゐるのは主として沖積黄土地帶であるが、本來的な風積の黄土が持つ特性の一つとして、毛細管現象による地下水分の補充が、こゝでも失はれず、好もしく作用してゐるのである。

華北棉花の品種

華北に栽培されてゐる棉花の品種は二大別して在來棉（中國在來のもの）と、陸地棉（アメリカからの移植棉種）とである。

在來棉は、中國農民によつて、その花の形や、莖の色、纖維の長短、種子の恰好などから、思ふまゝな名稱を與へられてゐるので、その名稱の種類は非常に多い。同時に、不用意な混交も盛んに行はれてゐるので、正確にどれ



だけの品種が存在してゐるか明確ではないが、その主なるものを擧げれば次の數種に歸するであらう。

蒴棉―その在來棉の八〇%までを占めてゐる。一般には西河棉と稱せられる。その纖維は粗剛だが純白、纖維長は平均一八ミリ、繰棉步合は三七―四〇%、蒲團棉、中入棉などに適す。

細絨棉―纖維は白色、細軟、纖維長は二〇―二三ミリ、繰棉步合は三二―三四%、太物紡績の原料に使用され、二十番手の紡出も可能なりとされ混棉用となる。

白棉―その白さ、太さ、硬軟など、蒴棉と細絨棉との中間に位する。纖維長二〇ミリ前後、繰棉步合は三四―三六%、十六番手―二十番手の太物紡絲混棉用。

紫棉―割合に柔軟だが、色は茶褐色纖維長二〇ミリ前後、繰棉步合三二―三四%、農村家內工業たる上布の原料となつてゐる。

陸地棉は、前に述べたやうに清朝末期に輸入された歷史を持つものであるが、それが中國の棉田の上で發展しはじめたのは第一次世界大戰當時からである。以後、だん〳〵と在來棉を壓倒しつゝある現狀にある。

トライス（中國名「脫里司」「脫字棉」）―華北陸地棉は大部分がこの種に屬すると云つた普及ぶりである。纖維長は八分の七インチ―一インチ。繰棉步合は二八―三三%、四二番手の紡出可能とされてゐる。

キングス・インプルーヴド（中國名「金字棉」「金氏棉」）―山東省に最も多く普及してゐる。これは日本人棉花關係業者の種子配布や奬勵の努力の賜である。キング種は纖維長八分の七インチ前後、繰棉步合は三二―三四%。三二番手級までの單獨紡出が可能とされてゐる。

ストンビル（中國名「斯字棉」）―まだ河北省・山東省の一部に栽培されはじめたばかりの新輸入種で、その成績の良好なのを刮目されてゐる。纖維長は一インチ三二分の一―一インチ三二分の三。繰棉步合は三三―三五%、中番手上物級の紡出可能。

陸地棉としては、これら三種が最も著名、かつ有力なものであるが、華北の自然的條件を考慮に入れて輸入されたものでこれらはみな早熟生である。

棉花の生產と流通

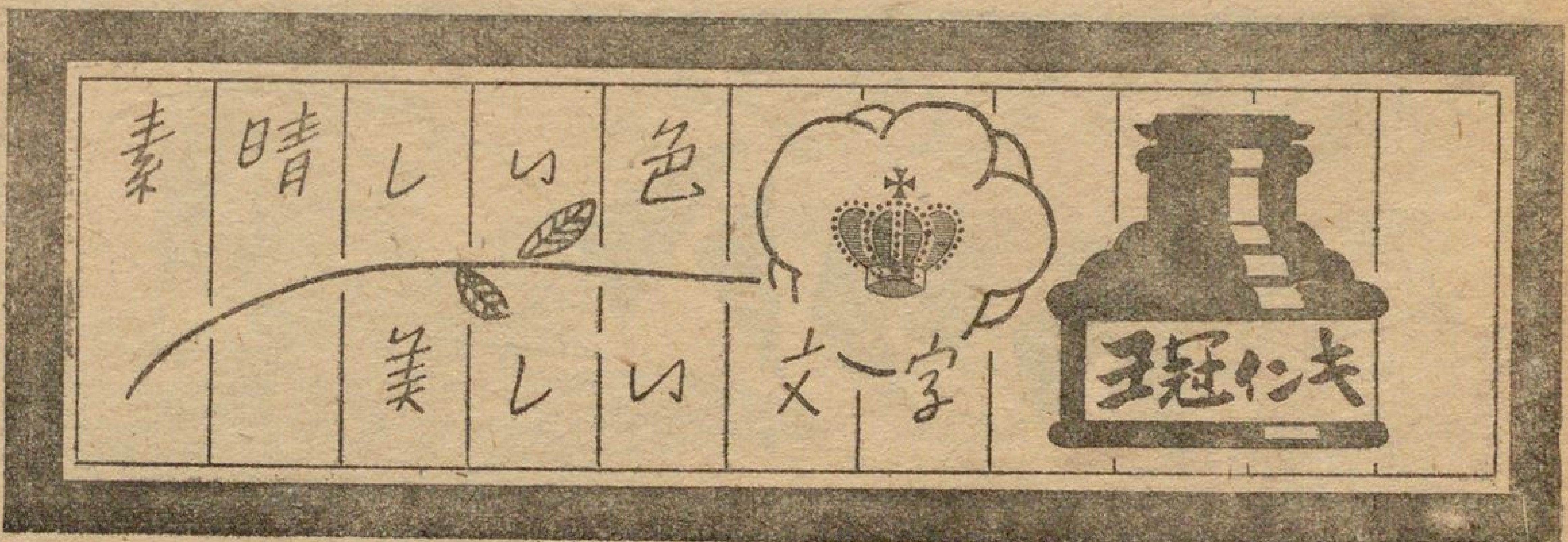
揚子江流域や、それ以南では、棉は夏季作物として大麥や菜種、または小麥などの收穫の後を受けて播種されるが、揚子江以北の華北棉作地帶では、棉は春季作物であつて多期休閑地に播種される。

棉花は他の穀類と違つて一年一作であるが連作される。一般に三、四年乃至は七、八年ずつと連作しては、一、二年だけ穀作し、また棉花の連作を續けると云つた工合である。輪作される場合には普通の二年三作（粟、高粱、小麥等の組み合せ）に棉花が加はり三年每に登場することとなる。

棉花の播種は淸明節以後、立夏以前で凡そ穀雨の時をもつて行はれ、在來棉も陸地棉も八月中旬から九月上旬にかけて、蒴の成熟したものから順次に開絮するので、それの棉絮を收穫しはじめるのであるが、何回か試みて、十一月中旬頃までには終つてしまふのである。採つた棉は腐敗を防ぎ、繰棉を容易にし、品質をよくするためにすぐアンペラの上で一日、二日と乾燥させなければならない。

華北の農民は、こゝで自分の收穫した棉花と別れてしまふ。彼等の大部分は自家で繰棉を行はず、實棉のまゝ鎭や城市の繰棉業者に賣り離してしまふのである。

繰棉とは、繰棉機によつて實棉から種子を取つて、棉毛だけにする作業で



あるが、農家は繰棉機を所有せず、事らその業者によつて行はれる。そしてそれのすんだ棉花を花店なり花行なりが買ふ。だから大部分の棉作農民は、自分で棉花の播種用種子を持たない。それも繰棉業者から買ひ受けることになつてゐる。從つて種子の純粋性が失はれ、品質は退化し易いが、多くの農民は、それでも自家で採つた種子を蒔くよりは好いと信じてゐる。

けれども、華北の自然的條件の下では、どうしても「土地＋水」でなくては收穫に成功することは出來ない。華北に於ては棉花は、播種期、發芽期、幼苗期には大抵土壤水分の不足を來す他、いつも旱害と洪水とにおびやかされてゐるのが華北農業の弱點である。これを併せ救ふものが大規模な治水と灌漑とである。大規模な治水事業は國家の力がこれを解決するより他に途はない。農民が自らを救ふために努力をしてゐるのは灌漑である。灌漑を施せば棉花の收穫は明らかに平均して一〇〇％の增收を見ることは今日通說となつてゐる。

だが華北全體として見れば灌漑された棉田はまことに寥々たるものに過ぎぬと云はなければならない。

これら棉花栽培に所要の各種目にわたる勞働力の量は、他の如何なる農産物に於けるよりも大であつて、華北農民は、これに最も集約的な勞働を投下しなければならない。今、この點でそれを小麥の場合と比較すると、一畝あたり所要勞働力、小麥に於ては一一・三人であるが、棉花にあつては一九・八人に達する。（共に灌漑勞働を含む）これらの勞働力は、經營規模の大小、自然的條件の適否によつて、それぐに異り、また棉作は他の作物よりも、より多く婦女子の家族勞働が可能であるとは云へ、同一の條件の下では棉花はいつも最大の勞働力を要するのである。

右のやうな棉作栽培が、農家經濟に對してどんな收支關係を及ぼしてゐるか？　この關係は、その時と場所の物價、棉花價格、農業經營の狀態、自然的條件、等々によつて一律には考へられないはれ共、次の諸例はその大體の傾向を教へるであらう。

昭和十四年度、河北省獲鹿縣馬村の調査によると、棉作純收益は自作、自小作、小作總平均して、一戶あたり一五九・四六圓になつてをり、これは農家現金收入中の大きな部分を示してゐる。

また昭和八年度（民國二二年）、河北省西河區に於ける棉花の一畝當り純收益は、四・七圓（小麥は〇・六五九圓）であり、昭和十年度（民國二四年）河北省東北河區、通縣小街村に於けるそれは、一畝あたり純收益五・三八五圓（小麥、粟二毛作で三・三九五圓）である。

棉作の場合は一毛作であり、他の穀類の場合は二毛作であるから、その點に考慮が置かれなければならないが、何れにしろ、棉花栽培は他の穀作に比して有利である事を示してゐる。

依然として自給自足的色彩の強い華北農村の農家にあつては、農業小經營者はとかく食糧用穀作に傾き易いにしても、換金作物として棉花が有利であることは云ふまでもないことである。

事變前、華北に於て棉作栽培が歩一歩と發展し、漸次、同じ商品作物たる落花生を、より劣等な畑地に追つてゐたこともまた理由あることである。

（鹽及び棉花記事は「北支那資源讀本」による）

第一書房文化雜誌
新文化
五月號出來・定價三十錢

石炭

華北に見る土法炭礦

狸掘り

後藤貫吾

支那に於ける、特に北支の石炭の埋藏量の豐富な事は旣に御存じの通りであるが、此の豐富な埋藏量は世界石炭總埋藏量の約七%、卽ち世界第三位であるに拘らず、その生産量に於ては世界生産量の僅か〇・七一%（昭和十三年統計による）卽ち世界第十六位といふ貧弱な狀態である。而してその主たる原因は何であるかを檢討して見るならば地域的に大部分の豐富なる埋藏量が奥地であつたため、それに伴ふ輸送問題と石炭稼行の方法である。卽ち支那の生産量より見るに近代式生産設備を有する炭礦が外國資本及び土着資本によるものを併せて約六六%に對し、純然たる素朴な土法炭礦、謂ゆる茲に言ふ無數の「狸掘り」によるものが、三四%、約三分の一といふ數量に上つてゐるのを見ても支那炭礦業の稼行の程度が覗はれると共に、素朴な土法炭礦が決して度外視し難い存在であることも解る。

然らば茲に云ふ「狸掘り」とはどの程度の炭礦を指すかと云ふに、全く小資本、小規模な、凡そ機械と名のつく樣なものは用ひぬ、最も原始的な採掘方法を指すのであり、その稼行狀況たるや洵に幼稚そのものである。所嫌はず、全く驚くべき簡單さで地表より斜坑（大部分斜坑だが稀に竪坑がある）を掘進してゆく。從つてその掘進も立派な機械を使用する譯でなく至つて遲々たるものである。故に斯樣な原始的な方法によるためにその深度は最高四〇〇米位迄の鑽孔が可能とされてをり、鑛夫は坑内に於ける地下水の堆積に對し相當な苦鬪を續けねばならない。

牛皮の袋や柳枝の容器で、一人々々手送りに坑外へ排水をする。又、杭木なども支那の國内では木材が少なく、高價なために横坑道などには殆んど用ひられず、僅かに鑛夫が匍匐出來る程の小さな直徑をもつものに過ぎない。從つて採掘された石炭の搬出は何百米もの地下から一人々々が小さな裸火をたよりに籠を背に負つて、一股一股斜面に足場をつけて坑外に運び出すと云つた狀態である。

全裸を炭塵と汗で黑光りにして漸く坑外に這ひ出て新鮮な空氣を大きく吸ひこんでゐる有樣は、全く此の世の中のものとは思へぬ深刻な光景である。

故にその坑道の深度にもよるが、斯うして一人が大體一日八、九回乃至十二、三回程度の搬出が可能であり（竪坑の場合には人力の轆轤を利用して捲上げてゐる）。一日の産出量は一〇噸から最高七・八噸程度で、全く採掘及び搬出能率はすべて人力の多寡に比例してゐると云ふ事が出來る。從つて、年間、これ等の素朴な土法炭礦の總生産量約六・七〇〇萬噸と推定される事によつても、如何に無數にこの「狸掘り」式炭礦が點在してゐるかと云ふ事が想像され得る事と思ふ。

斯くの如く支那の各地では、この原始的稼行法が容易に行はれ得るといふ事は埋藏量の豐富性にもよるが、またその炭田の直接的な近邊地方の僅少なる家事用、工業用の需要を滿すことをその主たる目的として地方的（局地的）自給自足によつたものと考へられる。

從つてこれ等の素朴な土法炭礦の企業性または計畫性といふものは全く乏しい。炭礦經營に於て全く炭礦の諸作業はすべて筋肉勞働に制約せられてゐることから、少しでも經營條件が不利になれば、稼行を休止または廢業する狀態で單なる石炭採收業にすぎない。

前述せる通り地下水の流積といふ事には最も惱まされる。從つて夏期の降水による坑内の自然出水に對してはこれ等の業者は拱手傍觀といつた態で、自然減水を俟つのである。

北京の近郊の門頭溝地方には、現在は日華分辦經營となつた近代式設備を有する中英炭礦（現、門頭溝煤礦）と他の一炭礦を除けば、百有餘の素朴土法炭礦が點在してゐる。が、これ等の土法炭礦は雨期に相當多量の降水があると殆んど全部自然出水のため稼行休止をせねばならぬ。

而るに群小の炭礦は積極的に排水をしない。と云ふのは、排水ポンプを設備せる中英炭礦が、低地位にあるため極力排水作業を續行せねばならない事により、比較的高地位にあるこれ等素朴土法炭礦の水位は徐々に低下し、もの二、三ケ月も經てば再び稼行が開始出來る、といつた全く他力本願式な如何にも支那的のやり方が遺憾なく見うけられる。

また稼行勞働者についてみても、その近郊の農民に依存することが特に强

く、半農半工の形で、農繁期には全く稼行率が低下し、農閑期に入るにしたがつて次第に稼行率が高まつてゆく。

斯樣に素朴な土法炭礦は、變轉常ならずで、絶えず稼行率に變動の波があり、一坑の經營が困難を感ずる時には任意にまた次の新らしい坑を求めて移動する風習がある。

「狸掘り」と云ふ語も斯くの如き移動性から出たものではなからうかと思はれる。恐らく素朴土法炭礦に關する確たる統計、または記録が今迄に殘つてゐないのもこのはげしい變動がその原因の一つでもあらう。

更に素朴土法礦が制約されるものは輸送問題である。

近代式設備を有する諸多の炭礦は比較的所在位置及び輸送の便にめぐまれてゐるのに較べてこれ等の炭礦は生産費が低廉であるに拘らず種々な運搬仲介業者に依存するために極めて多くの制約をうけてゐる。從つて炭礦業者が自己の計算に於て遠距離輸送するといふ事は、資本關係からも殆どなく、單純な商品として坑口で運搬業者との取引が行はれる事も多く、これ等の産出炭は運搬業者の手により、最も有利な採算の消費地に向つてその行程の長短を厭はず輸送せられるのである。

冬季ともなれば、門頭溝から北京への約二〇哩の行程を四、五千頭のラクダが蜿々として運炭する風景を見受けられるであらうし、各地部落で、又は

縣城でロバ、牛馬車、手押車等で三々五々の群をつくつて運搬せられる石炭を見かけられる事と思ふ。これが謂ゆる「狸掘り」による産出炭の輸送である。斯くの如く土法炭礦業者は、諸多の大炭礦業者に比し享受し得る利益は僅少であり、事業の進展も餘り必要としない。茲に素朴土法炭礦が「狸掘り」の域を脱し得ないで、長年その運營を續けてきた所以もある。

而るに事變勃發後、飛躍的な支那諸炭礦の增産が要求せられるに及んで、この素朴土法炭礦に如何なる影響を及ぼしたであらうか。從來の近代式設備を有する諸炭礦の日本側の管理指導による生産量の增大は、素朴土法炭礦の相對的重要性を減少させたとは云ふものの、最近に於ける資材其他の炭礦運營物資の入手が諸多の大炭礦でさへ、益々困難性を感ずると共に現在の設備を以てする生産量が年々にその限界に近づきつゝある時に、一方では對日重點が益々過重せられつゝある事を併せ考ふるならば、素朴土法炭礦がこのまま放置せられてゐてもよいものとは考へられない。

先年設立せられた華北石炭販賣會社及び山東産銷會社等はその事業の一端として素朴土法炭礦の開發にも相當努力してゐるが、勿論この無數の土法炭礦の開發奬勵は、前述の如き經營方法より見ても貴重な資源の亂掘の憂ひなしとしないが、指導の如何により、又これまでの輸送方法の改善等に對する絶對的生産量の增加により、需給調整の一端として期待し得るものと思ふ。

現下の物價高騰による必需物資の入手難、特に麻油、食料、馬糧の不足はこの素朴土法炭礦運營に極度の影響を及ぼし、休坑又は廢坑するものの數は多數に上つてゐるものと豫想せられるのである。特に山西地方に於ける素朴土法炭礦の生産量のもつ影響が大きかつただけに、最近の情勢による休坑又は廢坑の結果、相當石炭の逼迫を告げてさへゐる狀態の處もある。故に私はすべての素朴土法炭礦の指導援助といふ事を望むのではないが……少くとも局地的供給以上に生産能力の大きい一部の炭礦、または將來現地に於ける中小規模の重工業原料炭の補給といふ意味に於て、この「狸掘り」を地域的、炭種的に整理活用するべく、積極的に種々の指導援助を與へるべきではないかと考へる。

勿論、この指導援助が、或は「狸掘り」をしてその「狸掘り」の域を脱せしめる要求となるかも判らない。而し何れにしても、この「狸掘り」に目を向けてよい時が來たのではなからうか。

（筆者・華北石炭販賣會社買付係主任）

華北の人的資源

勞働力

清水　久

華北は、物的資源のみならず人的資源、即ち勞働力に於てもその供給地であるとされてゐる。

それでは華北の勞働力はどの位あるか、又華北の勞働力は如何に動員されてゐるか、更に華北の勞働力の性格はどうか。

華北の勞働力は量的に壓倒的であることは一般の常識となつてゐるが、その概念の中に含まれるものは所謂山東苦力と稱されて來た多數の出稼勞働者であり、前歐洲大戰の際に英佛聯合軍が、華北の勞工を募集しようとした企圖、蔣介石や毛澤東の抗戰理論の題目である所の〃地大人多〃などがある。

しかし、實際に幾何かと言ふ數は、從來統計や調査の不完全な、また行はれ難かつた華北では、確言出來ないのである。人間が多いことは確かである。從つて勞働力が多い事も確かである。

華北人口一億と一概に言はれるが、それは略適確である。これが如何に多いものかは一平方粁當り人口密度を見ると判然とする。

省別	一平方粁人口密度
河北省	一九五・一
山東省	二〇六・一
山西省	七九・四
河南省北部	二七八・七
江蘇省北部	二四〇・一
安徽省北部	一八八・九
平均	一八〇・九

これは日本內地の人口密度が約一九〇、滿洲國のそれが約三〇であることに比較すれば如何に高いか想像されよう。

この老大な人口から推定される華北の勞働者數亦大きなものである。それではその勞働者はどんな產業についてゐるか。簡單にその割合を示すと、

農業	七三・三%
鑛業	二%
工業	八・七%
商業	六%
水產業	〇・七%
交通運輸業	三・三%
公務自由業	二%
その他	四%

この表で見られる通り、華北では、農業人口が他のものに比し格段の差を以て多いことがわかる。農業政策こそは華北の重要問題だとされる所以である。そしてこゝにこそ、出稼勞工の鍵があるのである。

大體華北農家の生活標準は一戶平均五人の家族があるものと見て、農業のみによつて生活するには約三〇畝の土地がなければならないとされてゐる。然るに實狀は二〇畝以下の零細農が河北、山東とも全農戶數の五六%を占めてゐる。從つて當然その土地のみに依つて生活維持の出來ない人口が存在するわけである。これが卽ち餘剩勞働力で、滿洲に出稼に出たり、礦山に働きに出たりするわけである。

農業經營が零細農であり、時代遲れである外に、年每のやうに水害、旱害蝗害等の天災が多く、匪賊、內戰等の人禍が加はり、之等諸原因によつて華北農村の餘剩人口は莫大なものとなるのである。この人口が離村し流出すると、所謂、難民となり流民となる。

元來近代產業の發達してゐる國であるならば、この餘剩人口を產業都市に吸收し、その都市の膨脹となるのであるが、中國の工業は未發達で手工業の域を出ず、日本の經濟的指導により漸くその緒についたところで、之が全面的吸收は未だしである。

前示の勞働者の割合で見る通り、農業以外の勞働者は非常に尠い。しかもその中でも所謂獨立した賃銀勞働者と稱され得る者に至つては、工業勞働者中の一割、交通業勞働者中の二割、鑛業勞働者中の二割位に過ぎない。手工業勞働者は、所謂徒弟で、親方の下に見習をしながら使はれてゐるわけである。しかし、今後は、華北の產業の進展につれて近代勞働者技術者も急ピッチで增加するであらう。建設總署の土木技術員養成所、華北交通會社の鐵路學院、電々會社の通信學院、勞工協會の青年技術員養成所等が新時代の要請する技術的人材をどしどし世に送り出してゐるのは賴もしい。

では鑛山の坑夫等はどうか。鑛山勞働者の殆どは半農半工勞働者である。そしてこの半農半工勞働者であることが中國勞働者の一特質をなしてゐる。

半農半工勞働者とは賃銀收入と農業收入の兩方に依存して生活を維持してゐるものを言ふ。半農半工勞働者の特性は賃銀が低いこと、能率が低いこと

就業率が低いことなどが擧げられる。つまり前述のやうに農村の餘剩勞働力の多いこと、從つてその入手が容易なことなどが低賃銀の原因となり、事業ではなくて農業との兼ね合ひであること、それにより熟練度が低いことなどが低能率の原因となり、農繁期等の爲に就業率が下ることになる。

最近愛礦村運動といふことが礦山方面で盛んに唱へられてゐるが、それはつまり礦山の周邊村落から働きに出て來る坑夫、半農半工勞働者を、如何に能率的に、合理的に生産面に運用するか、又その村落と礦山の關係を如何に有機的に結合し共に相互的に扶け合つて行けるかについて提唱された一つの運動であつて、礦山勞働者が半農半工勞働者であることを知つて居れば成程と頷かれることと思ふ。

華北の所謂餘剩勞働力はどれ位あるか。その推定は人によつて色々異るのであるが、大體百萬を以て上げられてゐる。これが滿洲や蒙疆等の人口密度の低い方に流れ出るのは自然である。

華北の人口が滿洲へ移動しはじめたのは秦の時代からであると言はれてゐる。それは時代と共に紆餘曲折を經て清朝に及び、一時積極的植民政策がとられ、後には滿洲民族保護の爲に移民の整理、禁止が行はれた。其後ロシヤの滿洲經營が行はれる頃から再び勞働者の需要から移動が起り、滿華間の交通の進歩により移動が一層はげしくなつた。その後滿洲事變を經、滿洲國建國に至るや、華北よりの人口移動は激增した。こゝに滿洲國は之が取締に著手、入滿は許可制となり、滿洲勞働統制の第一歩が踏み出されたのである。

支那事變以後、日滿華經濟ブロック建設時代に入るや、華北の勞働資源の統制運用は愈々軌道に乘り、遂に勞工協會の誕生を見るに至つたのである。

では滿洲にどの位華北勞工が送られてゐるか。華北勞工の國外供給に際して發行される身分證明書、即ち勞工發證數によつて之を示すと――

昭和十二年	三三三、六八九
昭和十三年	五〇一、六八六
昭和十四年	一、〇一二、一四八
昭和十五年	一、三六四、七〇六
昭和十六年	九四九、二〇〇
昭和十七年	一、〇三八、四七六

この數字の中には滿洲のみでなく、蒙疆、華中、朝鮮向けの出稼勞工も含まれてゐるが、大部分は滿洲向の勞工である。隨伴家族に對する發證は含まれてゐない。

これ等滿洲の出稼勞工は其後どうなるか。勞働により得た金を送金するもの、持ち歸るもの、土着する者等あるが、歸國する者の數は毎年入滿した者の數の大體四―五割程度であり、歸國者の在滿年限は少くも二年、多いものでは十年のものもあるが、大體三年の者が大多數を占めてゐる。

出稼勞工で家族を同伴する者も相當あり、年によつて異るが四―一〇%が家族同伴者である。家族同伴者が必ずしも定著者ではないが、永住移民の多くは家族同伴者である。

出稼によつて得た金は、生活補助に使ふ、畑地を買ふ、負債を返す、嫁を貰ふ、等々の希望に繋がつてゐる。

出稼勞工は國外の會社や業者が華北に來て、團體募集をして連れて行くものと、各個人毎に行くものがある。ここで仲々莫迦に出來ないのは募集に要する費用である。勞力需要側の募集人が例へば滿洲から華北にやつて來るとすると、自分の旅費、滯在費、勞工の運賃や途中の宿料、その他を要するのであるが、それを募集費として、勞工一人募集に要する費用は大體一〇〇圓が必要であるといふ。

その他に勞工を送る輸送の問題も相當に難しい。又、募集費や勞工の持歸金は滿洲國から華北への支拂勘定となるわけであるから、インフレ防止、國際收支のバランスを調整しなければならぬ、等々いろ〳〵な附帶的問題が多いのである。

華北に於ける餘剩勞働力は豐富である。しかしこれは決して無限のものではない。今や配分供出の調整を正し、根本的な勞働力育成培養の基礎方策を樹立せねばならぬ時に達してゐる。しかも國內國外を通じ、開發が進めば進むほど、增産が圖られれば圖られる程勞働力の需要は量的にも質的にも益々增大することは明かである。その爲に現に恆久的募集地盤の育成や出稼人組合の結成等が進められてゐる。

勞工の質的向上、福祉施設の完成、物資の配給、家族の保護、保健設備の設定、傷病に對する扶助制の確立、などなど、勞働力培養確保の爲に爲されねばならぬ事がいくらでもある。

戰爭は總力戰の段階に入つて、生産戰とすら言はれてゐる。實に勞働者は產業戰士の名を以て呼ばれる如くである。同生同死の誓も固く立ち上つた參戰中國の勞働者、產業戰士に對し、同胞各位の聲援と挨拶を期待して稿を終る次第である。

（筆者・華北勞工協會職員）

安國藥王廟と漢藥

漢藥はその名の示すごとく、もともと支那がその本場である。もつとくはしくいふなら河北省京漢鐵道沿線安國縣藥王廟かその本場といふことができる。それは今も昔も變らない。

支那到る處に藥王廟はあるが、此處安國縣藥王廟は、靈驗が最もあらたかで、支那全國に產するすべての藥草は一度この廟に集まり、此處の神靈に觸れてきたものでなければ利き目が無いと一般に信じられてゐる。だから、支那全國の生產者から集り、さうして却屋、小賣業者の手へと散じゆく藥草の種類と量は、驚くべきものである。

藥王廟の祭神は一般に炎帝神農氏か或は唐の高宗に召見せられ諫議太夫の官にあがつたが病氣と稱して大行山に入り百餘歲の長壽を保つたといふ陰陽學、醫學の道に通じた孫思邈を祠るのが普通であるが、安國縣の藥王廟は後漢の武將邳彤を祭神としてゐる。

邳彤は信都（祁州）の人で後の光武帝に仕へ、信都郡の太守と成り、功によつて靈壽侯に封ぜられ、また光武中興の功臣として雲臺に其の像を畫かれた一人である。

一武神が病厄の神、藥種商の守護神として信仰を得るに至つた故事については、康熙十九年勺顯祖の編する『祁州舊志』に「本縣南關に漢光武中興二十八將の一人邳彤の墓あり、病に苦しむ者其の墓に祈らば忽ちに靈驗あり、遂に祠を築くに至る」とある如く、この祭神は單なる一つの信心に始つてゐる。此の信仰は、可なり古くから行はれ、宋朝徽宗の建中靖國元年（皇紀一七六一年）に貺侯に封ぜられ、南宋の咸淳六年（皇紀一九三〇年）には明靈昭顯祐王に封ぜられた。

廟祭は宋朝以來春秋二季に行はれ、春季は清明節に始り、秋季は十月十五日から各季共一箇月乃至五箇月間に亙つて催され、廟祭と共に藥市は立ち、祈るに靈驗あらたかな藥王あり、用ふるに百般の藥材があつて、如何なる難病でも此の地に來れば癒えざることなしと謂はれ、廟會の期間中は全國から善男善女は百里の途も遠しとせず、團體をつくつてお詣りに來るのである。

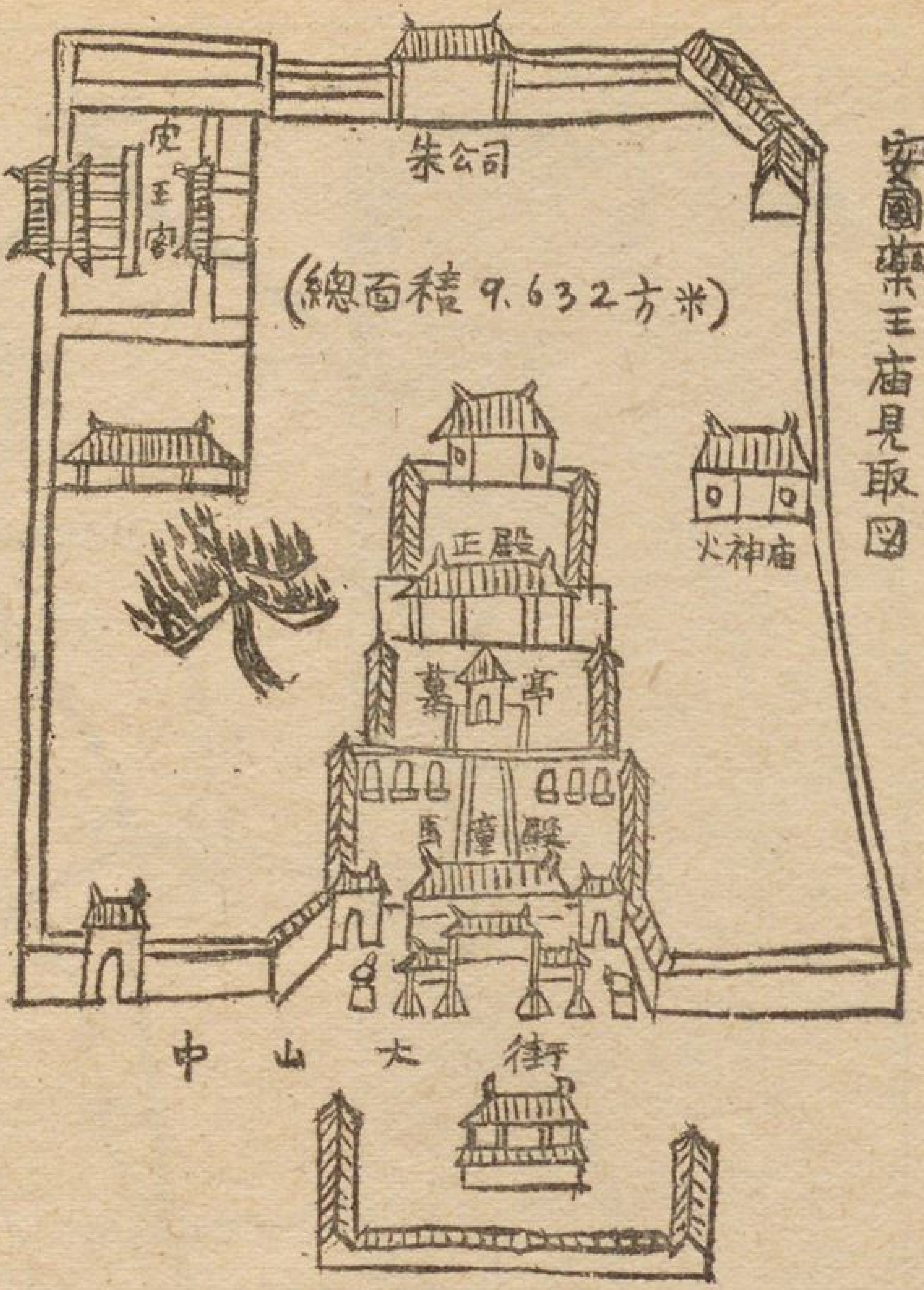
薬包に同封される薬草名と効能書（題字上カットも同じ）

また、各地の藥種商人は帮會（同業組合）を組織して相互扶助の下に藥種交易を爲すと共に、廟宇の修理、增築及廟祭に對する諸費用を負擔し、各帮會は二、三日交替の輪番で奉納演戲を催すなど、大祭は殆んど藥市によつて進行される狀態である。

記錄に殘る最盛大の廟會は、清朝道光二十二年（皇紀二五〇二年）の大祭であつて、城東から廟迄約四粁の間蜿蜒たる參拜客で埋り、夜を徹してその列はつゞき、一日の參拜者十萬を算したといふ。このとき沿道の各戶で提燈を吊したことから、その風習は慣例となり、今尙行はれ、古雅な雰圍氣を釀し出してゐる。

此の廟の變つたところは、病氣平癒の祈願をして全快したときは、願解として、富裕な者は三日乃至五日或は半月に亙り演戲を奉納し、或は扁額を揭げ、又は獻袍等をするが、貧困な者はその病家から廟まで距離の遠近にかゝはらず、一步に一叩頭又は五步に一叩頭、少くとも十步に一叩頭をなしつゝ禮參りをする風習がある。天津南郊靜海縣峰窩村の峰窩廟と俗に謂はれる藥王廟の進香法に、五步に一跪、三步に一跪して病氣平癒を祈るのと相似て、他にあまり例を見ない風俗である。

この廟會即ち藥市はまた藥種業者の最も活躍する時である。全支滿蒙から參集する藥種商人は古來一團を組織して、相互扶助機關とし（例へば雲南、



貴州方面の商人は雲南幇、とか、北京、天津、通州方面では京通衞幇の如き）其の商取引は幇會を以て行はれ、之が統帥は最大の商人か又は最高の人格者が當ることになつてゐる。然し其の交易は賣る者、買ふ者何れも公定の仲買人の手を經て一定の箇所で行はれ、賣買成立の際は、仲買人は出來高の百分の二の手數料を取ることに定められ、その淸算は毎年五月節句又は正月の二期になされてゐる。

事變前に於ける之等各幇によつて安國で交易された一年の統計によれば、

藥材	二六八種
輸入數量	四八、九一三、五〇〇斤
金額	三二、〇三七、〇〇〇元
輸出數量	三二、〇二八、七二〇斤
金額	二三、七一九、四二六元

右の數字を見てもわかるやうに、此の廟會は祭典といふよりむしろ、全國藥種業の取引祭と云つた方が適當なくらゐである。

この廟會も事變の影響はまぬがれ難く、一時は中止の狀態であつたが、地元民衆のやみがたき要望を入れて、現地飯沼部隊が中心的指導力となり、幾多の困難なる條件を克服して、昭和十五年の秋祭からまた復活することになり、爾來昔日の殷賑を取り戾し、今年の秋祭は事變前以上の盛大が豫想される。

さて、大東亞戰爭勃發によつて、舶來の化學藥品は途絕えたけれど、我が東洋には以上の如く無限の藥草資源がある。ちつとも困ることはないのである。

近頃、醫學、藥學方面でも民族的反省の機運が澎湃として起りつゝある。それはさうあるべきが當然である。東洋人が自分達の生れた土地に生えた藥草で、そして加へて東洋の醫術を用ふるならば病氣は必ず癒るのである。

石山福治編著　B6判一七五〇頁

最新 支那語大辭典

定價十圓・送料五十錢

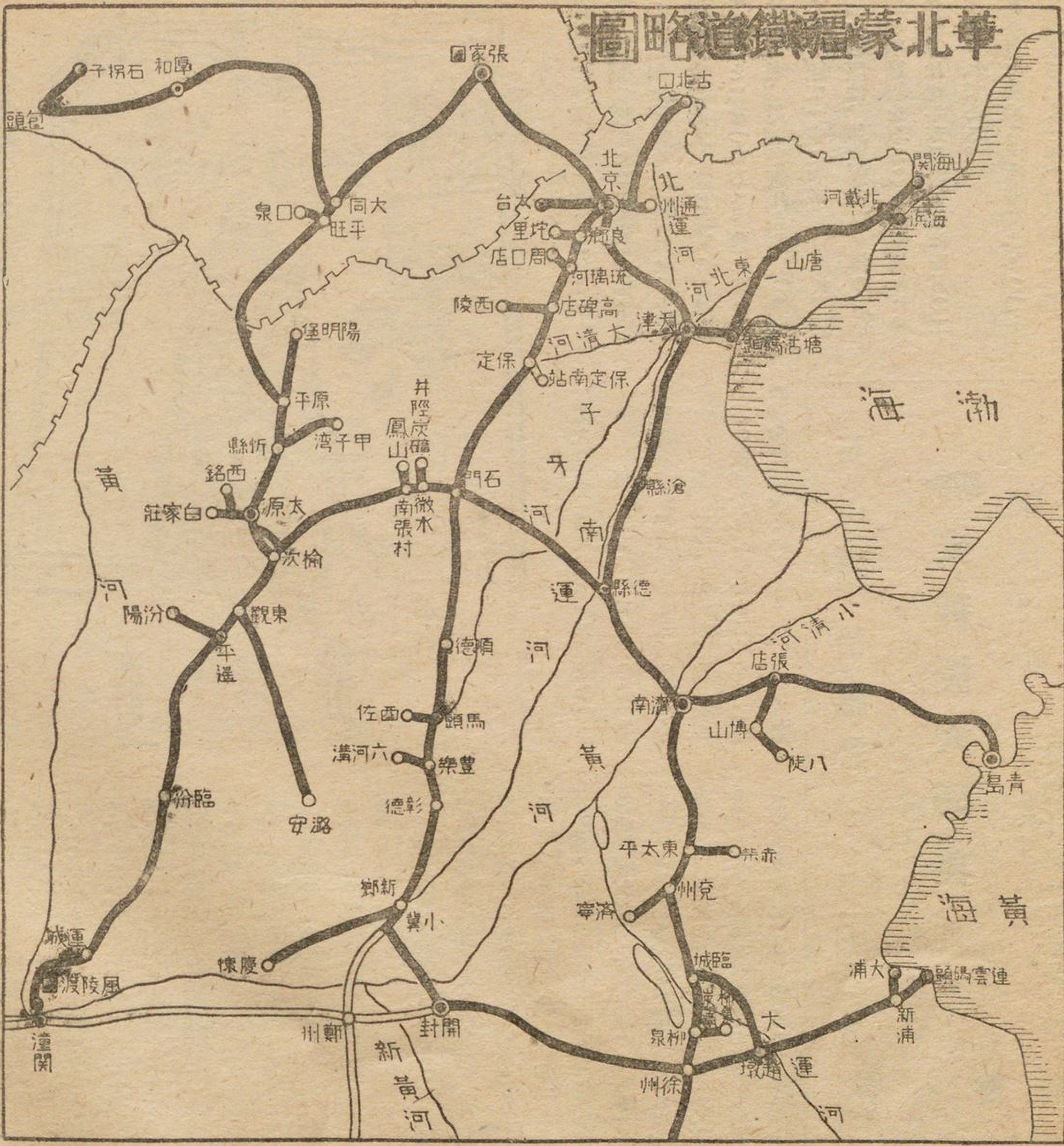
第一書房

第一書房 今月の新刊

＊永らく御待ち兼ねの石山福治氏編著『**最新支那語大辭典**』（一〇・〇〇）が漸く出來ました。包容語數十四萬語を突破する空前の大量を示せる大著、俗語・方言・熟字の豐富に至つて支那現代時文の硏究に標準的根據を與ふるものであります。更に滿洲語に對しては滿支字音對照表によつて自由に檢出される等、活用の廣汎至便なること他に比を見ない本書の特色であります。

＊ジエス・ステユアート作、岡本成蹊氏譯『**土に生きるもの**』（原名「天國の樹」）（二・三〇）は、アメリカ農民生活の現實を暴露せる長編小說、逞しいリアリズムの傑作であります。

＊帝室博物館鑑査官秋山光夫氏著『**日本美術論攷**』（六・八〇）も漸く出來。日本美術の總粹を展望して、著者多年の心血を傾注せるもの、原色版その他圖版插繪多く裝幀また稀にみる豪華な名著です



華北蒙疆鐵道

京山線（北　京―山海關）
京古線（東便門―古北口）
京漢線（西便門―小　冀）
津浦線（天津北站―蚌埠）
京包線（豐　臺―包　頭）
膠濟線（青　島―濟　南）
石德線（石　門―德　縣）
石太線（石　門―太　原）
同蒲線（大　同―蒲　州）
懷慶線（新　鄉―懷　慶）
隴海線（連雲碼頭―開　封）

（お斷り「東城記」休載）

昭和十八年四月十五日印刷納本
昭和十八年五月　一　日發　行

五月號
（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番地一　長谷川巳之吉
印刷者　東京市小石川區久堅町一〇八（東京二〇四）共同印刷株式會社　古川一郎
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替　東京六四二三三番
電話九段(33)一四一五番　三三四四番
會員登錄番號　一一六五〇八番

一册定價㊕三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社

禁無斷轉載・檢閲濟

☆治療の要諦

化膿菌に對して劃期的治効を謳はれてゐるズルホンアミド劑の撰定に當つては其化學的純度高きものを採る事が治療の要諦であります。

☆ポレオン「日染」

ポレオン「日染」は二基ズルホンアミド劑の純正品にして、内服に依り左記諸疾患に對し的確に奏効するのが特徴であります。

適應症

化膿性 婦人科疾患
扁桃腺炎・丹毒
中耳炎・歯槽膿瘍
急・慢性 淋疾
其他あらゆる化膿性疾患

二基ズルホンアミド純正劑

ポレオン錠「日染」

NISSEN

包裝 二〇錠 一〇〇錠

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

P—178

NISSEN

"日染"の新發賣！

砒素驅黴劑

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。

時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

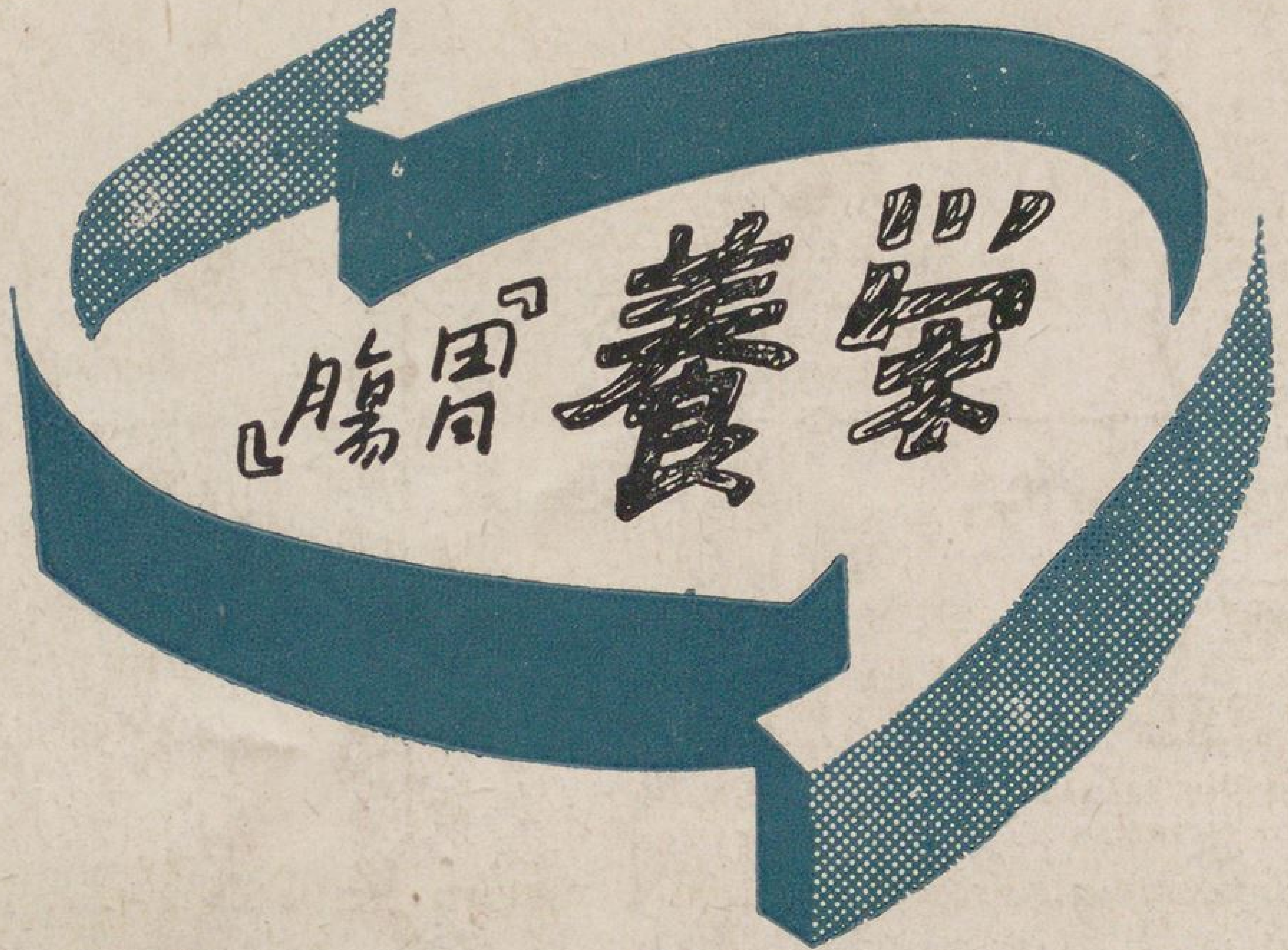
一號 二號 三號 四號 五號 六號
各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

武田發賣品



強力メタボリン錠

V・B₁は胃腸筋壁の緊張を恢復し食慾不振、胃腸膨滿感、蠕動減退等胃腸症狀を解消し…

膵臓を賦活し脂肪吸收を改善し、助成酵素として含水炭素の消化を促進すると共に…

個体組織の酸化不全を調整し植物神經の興奮を鎮靜する等心身を明朗ならしめ榮養を良好ならしむ。

胃腸アトニー、食慾不振、消耗性・熱性疾患時、妊産授乳時の榮養補給、脚氣、神經痛……

V・B₁含有量 一錠中〇・五ミリグラム

☆一〇〇錠　三〇〇錠

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十八年四月十五日印刷納本 昭和十八年五月一日發行（毎月一回一日發行）第四十八號

北

支

定價三十錢